

三一

(竖帳) (表紙)

明和式
享保十五年庚

貳番

問屋御用留之写

酉一
戌四月ヨリ明和七寅年迄

問屋古代々御達書并御用留之写 貳番

外二

歩行夫百四拾貳人

金衛門方出辻

享保十五年戌四月廿三日明七ツ時々
一馬三百六拾壹疋

但 三百疋
貳拾疋

郷村
上御町
下御町門前共二

伝馬百八拾疋

笹嶋金衛門所江

賃馬百八拾壹疋

江川次郎衛門所江

内三拾疋

枝川村迄相勤申候

貳疋

姫馬

残り百四拾九疋

外二

伝馬六拾九疋

金衛門方出辻

右人馬廿三日御用相勤申候分

一人足拾人

下御町

内八人 歩行夫

残り貳人

一馬 百疋

郷村八ヶ村々

内三疋 伝馬

内壹疋 賃馬

残り九拾六疋

右人馬廿四日御用相勤申候分

一人足拾人

下御町

内五人 賃歩

残り五人

一馬 百疋

郷村九ヶ村々

内六疋 伝馬

内貳疋 賃馬

内壹疋 姫馬

残り九拾壹疋

右人馬廿五日御用相勤申候分

右之通、享保十五年戌四月

御棺御通被遊候ニ付、枝川村迄

相勤申候人馬書付、江川次郎衛門方扣承申候書上申候、以上

戌二月

加藤三郎兵衛

江幡次郎衛門

御町御役所様

右之通、治郎衛門持参差上申候 戌二月廿六日

一 御棺御通之節、問屋上下着仕、問屋前江先年扣居り申候間、前々之通上下着仕、扣居り可申候哉、窺候所、前々之通り可仕被 仰付候

一 問屋前江差引人之儀、先年之通ニ而者人多御座候て、布而取込候間御減シ被遊候様ニ申上候処、尤成義壺ヶ所江五人計差出シ可申と御挨拶ニ御座候

一 御供之御方様御歸り之節、江戸御衆ニ而者御知人も無之、宿申付呉候様ニと御頼之御方数多候由、依之御宿之儀此度大方御使者宿被 仰付候得者、右御頼之御方も候ハ、何レ江宿申付可然哉と窺候処、未御附役者之次第も不相知候間、追而右宿之義可申付と御挨拶ニ御座候

右之通、次郎衛門窺申候 戊二月廿六日

一 二月廿六日ニ御用人石野隼人様被仰付之次第、左之通御役所被仰付候

御尊骸御用御荷物歩夫并御家中駄賃相渡シ候族、於御国伝馬・歩夫之儀、四町目ハ瑞龍迄伝馬・歩夫出候所、享保十五戌年成公様御尊骸御通棺之節、御下りハ小幡ハ瑞龍迄御供之族、歸り茂右同所迄歩夫・伝馬ニ罷成候、御領内之義者何連ニ而も同様之事ニ与奉存候間、右御見合之通此度茂小幡ハ瑞龍迄上下歩夫・伝馬可被仰付哉

但、御家中ニ而も駄賃等上ハ不被下候分ハ、駄賃・歩夫ともニ自分払ニ御座候事

二月

右之通、御書付相渡り申候、以上

二月廿七日

一 御使者御歸り之砌、伝馬両穀町今前々出申候事御役所江申上候得者、此度も同様之事と御挨拶ニ御座候

二月廿七日

御役所ハ御尋之次第左ニ

覚

享保十五戌四月廿三日
一步夫百四拾式人

同日
一 伝馬六拾九疋

右 伝馬・歩夫之義者笹嶋金衛門所江、御口書役塙吉左衛門殿・

郡司林平殿御出被成、御物成百石以下之御供之御方様へ無証文ニ而伝馬・歩夫御済被成候間、枝川村迄差出シ申候

同日
一步夫八人

同日
一 伝馬三疋

廿五日
一 伝馬六疋

外 嫁馬老疋

右者御供之御方様御歸り之節長岡村迄差出シ申候、尤御供之節無証文ニ而御通り被成候御方様へ者伝馬・歩夫差出候様、御役所様被為 仰付候間差出シ申候、是ハ江川次郎衛門方ハ差出申候

四月廿三日
一 賃馬 壹疋 宮田 長務様 一同 九疋 山野辺主水正様

一同 壹疋 梶間 孫六様 一同 壹疋 村上源五郎様

一同 壹疋 五百城軍蔵様 一同 貳疋 奥津 蔵人様

一同 壹疋 井上 加内様 一同 貳疋 大森茂次郎様

一同 壹疋 御普請方 一同 壹疋 大田原久米之助様

一同 壹疋 佐藤次衛門様 一同 壹疋 野沢儀衛門様

一同 壹疋 高山勘左衛門様 一同 貳疋 深沢四方之介様

一同 貳疋 御厩方 一同 壹疋 御目附同心衆

ノ 貳拾八疋

同日
一 賃夫 壹人 小笠原董庵様 一同 壹人 河合瓢阿弥様

一同 三人 中山庄司左衛門様 一同 四人 木村鉄五郎様

一同 四人 五百城軍蔵様 一同 壹人 坂崎 仲様

一同 貳人 大田原久米之介様 一同 壹人 落合 加内様

一同 廿三人 山野辺主水正様

ノ 四拾人

右者御供ニ而御通被成候御方様賃人馬、枝川村迄江川次郎衛門方ノ差出シ申候

四月廿四日
一 賃馬 壹疋 たれ様 一同 貳疋 たれ様

一 賃夫 五人 たれ様

右廿四日・廿五日両日、賃夫・賃馬之義御帰之御方様へ江川

治郎衛門方ノ長岡村迄差出シ申候

右之通、江川次郎衛門方帳面承申候而書上申候、以上

戌二月廿八日

江幡次郎衛門

御町御役所様

右御尋ニ付件之通書上申候、以上

一 先殿様御諡号

源良公様与可奉唱被 仰出候

二月廿七日

源良公様江戸御出棺三月五日夜御道中御休所

御朝 御夕 御朝
御屋 御夕 御屋
御屋 御夕 御屋
御夕 御屋 御朝
御夕 御屋 御朝

御屋 御夕 御朝
御屋 御夕 御屋
御夕 御屋 御朝
御夕 御屋 御朝

御夕 御屋 御朝
御夕 御屋 御朝
御夕 御屋 御朝
御夕 御屋 御朝

御通棺ニ付、寄人馬割被 仰付之次第

三月八日御用
一人足三百貳拾五人

わけ 百六拾貳人 上御町ノ寄

わけ 百六拾三人 下御町ノ寄

同日 御用
一馬 三百五拾五疋

わけ 三百疋 郷村寄馬

七日夜九ツ時ノ寄

拾疋 上御町寄馬

同 七ツ時ノ寄

拾疋 同所心掛馬

是ハ馬不足ニ候得者、申遣筈ニ而被仰付候而、上御町へ
差置候

拾五疋 下御町寄馬

明ケ七ツ時寄

式拾疋 同所心掛馬

是又馬不足ニ候得者、差出候筈ニ申付差置候

九日御用
一人足拾式人 御町寄

わけ 六人 上御町寄

六人 下御町寄

明ケ六ツ時寄

同日
一馬 百疋 郷村寄

八日九ツ時寄

十日
一人足拾式人 御町寄

わけ 六人 上御町寄

六人 下御町寄

右明ケ六ツ時寄

一馬 百疋 郷村寄馬

九日夜九ツ時寄

右之通、八日寄十日迄寄人馬被仰付候

二月廿八日

一差引人 上御町寄五人
下御町寄五人

右上下寄之人両問屋江組合候而、五人宛遣申候様ニ被仰付候名

前、追而年寄中寄申参候筈ニ御座候

二月廿八日

一伝馬・步夫繼所手前 但シ十五日迄手前月番

一賃馬・賃夫繼所五町目

右之通繼申候段申上候

三月二日

覚

三月四日立 三日道中
一人足 四拾五人

同
一馬 三拾五疋

同 五百御出立、五百御道中
一人足 四百拾壹人

同
一馬 式百廿七疋

右者

源良公様御尊骸来ル五日江戸御出棺五日御道中

戌二月廿九日申上刻出ス

鴨志田喜衛門様御名前

右御先触之写片倉寄写取、段々長岡寄為知参候間、長岡寄之書
付御役所江持参仕、過人馬御頼申上候、尤枝川江茂件之通為知
申遣候、以上

三月三日

御通棺御供之御方様方伝馬・步夫并賃馬・賃夫御割付被仰付書、

左之通御役所寄相渡り申候

覺

加藤 郷藏様
 恒岡順次郎様
 城所 藤介様
 菊地龍之進様
 湯浅 与助様
 佐野庄左衛門様
 金沢五衛門様
 鷄飼 右膳様
 福田 十藏様
 小泉軍阿弥様
 鈴木元阿弥様
 小原与一衛門様
 妻木 辰藏様
 平山 兵藏様
 宇野元衛門様
 四宮喜兵衛様
 近藤 大吉様
 広木大衛門様
 加藤伝之衛門様
 塩谷八百之介様
 天海 寅十様
 菊地八百藏様
 大嶋森之允様

井上彦太郎様
 森本 平八様
 朝倉常衛門様
 井上 甚藏様
 菅 藤七様
 桑原猶衛門様
 小宅 登様
 中村喜衛門様
 松岡 伊八様
 山方儀阿弥様
 鳥羽理左衛門様
 飯嶋 庄藏様
 浅沼儀八郎様
 大西全衛門様
 尾崎軍之進様
 鰐木惣太夫様
 石井 八藏様
 渡井 伊助様
 皆川 源介様
 塩谷 久藏様
 永田 巨様
 近藤 清藏様
 山崎嶋之允様

鈴木卯之介様
 瀧口 万吉様
 齋藤 藤太様
 高村 庄七様
 清七殿
 御小間遣
 八人
 安藤甚左衛門様
 高須 藤七様
 奥御坊主
 花林殿
 表御坊主
 近謁殿
 鳴志田喜衛門様
 小泉伝兵衛様
 田嶋伊兵衛様
 御目附同心衆
 七人
 押
 七人
 佐野四郎衛門様御組
 七人
 小道具之者 式拾人
 御草履取 式人
 御厩荒子 壹人
 御中間 四拾七人
 小頭共二
 浅井八十八様
 近藤 団七様
 小役人
 落合所衛門様
 岸 浅衛門様
 御末之者
 式人
 荒子
 三人
 皆川 弥市様
 増子清太郎様
 同
 林左殿
 同
 友悦殿
 間々田源之允様
 清水 藤藏様
 御金方手代
 高根左次衛門殿
 御近習同心衆
 拾式人
 御駕籠之者 拾四人
 御厩之者 式拾式人
 黒鍬 百七拾三人
 小頭共二
 又三拾七人
 林 三哲様
 鈴木茂衛門様
 御見送
 倉沢忠兵衛様
 同
 小林左平治様

同 東条介衛門様
同 沢田伴衛門様
此御仁ハ英勝寺様合

高橋又衛門様
栗田伝三郎様

原洲兵三郎様
橋本権之介様

御茶道
田村善太郎様
本田 久古様

加藤 銀佐様

御先手同心衆 式拾老人
同心大工 老人

右之族、出江戸小幡迄下り片道分、片倉江江戸迄登り、片道分
之割合ニ而駄賃錢定法之割合を以相渡候事

右之御方様伝馬・步夫上下共ニ差出候様ニ被仰付候

寛 介太夫様

渡辺作衛門様

岡崎 内膳様

中村与一左衛門様

広岡権左衛門様

宮田三郎衛門様

岡嶋 伝次様

長尾左太夫様

伊藤 十内様

福生又兵衛様

伊藤 玄番様

渡辺伊衛門様

佐野四郎衛門様

輕部平太左衛門様

鶴殿 平七様

三木八次郎様

城所 登様

祓本 新藏様

中根八之衛門様

石原 兵藏様

中沢丈衛門様

千葉 六郎様

鈴木丹波守様

右之族、道中駄賃錢相渡り不申分ニ御座候、右之通ニ御座候、
已上

二月廿九日

御国吟味役様中

江戸 御同役共

右之御方様方賃馬・賃夫指出候様ニ被 仰付候

右之通五町目江も扣ニ写シ遣申候、以上

三月四日被 仰付

一寄人馬之儀御先触人馬共ニ被仰付多候間、又々御改左之通
被仰付候

源良公様御通棺ニ付、寄人馬割

三月六日御用分
一人足四拾五人

内式拾三人 上御町
内式拾三人 下御町

同日
一馬 三拾五疋

内拾七疋 上御町
内拾八疋 下御町

内九疋兩穀町合
内九疋往来馬

右人馬共ニ明ケ七ツ時合寄セ

三月八日御用分
一人足四百拾老人

内式百五人 上御町
内式百六人 下御町

同日御用分
一馬 三百五拾五疋

内 三百疋

拾疋

拾疋

拾五疋

式拾疋

右人馬明七ツ時分

同九日
一人足式拾四人

内 拾式人
拾式人

明六ツ時分
同断

上御町
下御町

同
一馬 百疋

八日夜九ツ時分

郷村

同十日
一人足式拾四人

内 拾式人
拾式人

明六ツ時分
同

上御町
下御町

同十日
一馬 百疋

九日夜九ツ時分

郷村

右之通被 仰付候

三月四日

一六日ニ御内物書岩井猶衛門殿・人別役照山善介殿・同心衆老

人右三人手前役場江御出張ニ候、又々七日ニも御出、尤六日

夜分通シ也

一御見送り御使者様方御地走人馬并荷付手伝御先見等ニ八日分
寄人足不足ニ候間、凡百人程も御過シ被下候様ニ御頼申上候
処、上下御町此上難義ニ候間、相濟難候条、四百拾壹人之内
御先荷物送り候人を四拾人折返シ遣候而、式人前宛ニ相立遣
可申候様ニ被仰付候ニ付、右之通取計申候、尤御先見長岡江
老人、吉里塚江老人、荷付手伝両問屋江式拾四人、右之内ニ
而遣候様ニと被仰付候

一八日寄馬つなき場所之義窺候処 御通棺之砌者御通り筋江つ
なき候義不罷成候間、其節ハ横町江立候様ニと被仰付候間、
又々伺候ハ、左候ハ、一向初分横町又者裏町江つなき可マ申
候由申上候処、尤之由御挨拶ニ候間、則四町目分看町裏三町
目裏四町め江つなき申候振ニ看町名主江申達候、五町め分紙
町八百屋藤四郎前分たばこ町江引続よし町迄つなき申候振ニ、
是又支配之名主江申達候

一四日御立之御荷物、六日暮過迄ニ參不申候ニ付、寄人馬之義
御頼申上候而立替申候、上町馬之儀立替間ニ合不申候間、六
日夜者兩穀町江拾八疋、残り馬拾七疋問屋前ニ而出シ、都合
三拾五疋寄置申候、六日夜中御荷物通り申候得者、拾七疋分
者上町分賃銭ニ而問屋前江請取申候筈、夜中茂御通り無御座
候得者、七日分三拾五疋上町分計出シ申候筈、右三拾五疋馬
数揃不申候ハ、不足分賃銭ニ而問屋前江請取可申筈ニ御頼
申上候而相濟申候

一人足之儀ハ六日夕下町分不残差出申候、是ハ夜中御通りに候
得ば、八日分人足ニ而差引可申候、夜中御通り無御座候得ハ、

七日ニ者不残上町寄可申趣ニ御頼申上候而相済申候

一六日寄馬之義御先触賃馬・伝馬之訳相訳り不申候共、定而不残伝馬と奉存候得共、御役所様ニ而も御了簡相済兼、兎角ク穀町と問屋前分半々ニ差出置、若不残伝馬ニ候ハ、又々穀町より差出候様ニ被仰付候、半々之割穀町分九疋問屋前分拾疋差出置申候

三月五日被仰付分

一六日夜寄馬穀町分拾八疋出シ申候、問屋前分拾七疋

一七日寄人足四拾五人 上町

一同 寄セ馬三拾五疋 上町

此内拾七疋參、拾八疋不足分賃錢請取、下町より出シ申候

右七日ニも御荷物一向參り不申候間、暮合ニ人馬引セ申候

一七日夕長岡村江 御着棺注進歩夫式人遣候、并壱里塚分御先

注進歩夫壱人遣候

一六日夕手前役場江ぼんぼり壱ツとぼし申候

一七日夕九ツ時迄とぼし候而、又々七ツ時とぼし申候

一五町目ニも七日夕七ツ時とぼし申候

一八日朝明七ツ時分御口書衆寺門幸衛門殿・同小林忠介殿・同

心衆式人御出張ニ候、五町目江ハ同心衆式人計り參り申候

一寄人馬郷村者七日七ツ時分段々參、上下御町分ハ明七ツ時分

段々參り申候

一六日分七日迄夜通シ前々扣候通、内物書衆・人別役・同心衆

へ賄三度酒兩度ツ、出シ申候

一八日ニ茂御口書衆・同心衆江賄三度・酒兩度出シ申候

一八日上下御町分出候、差引人五人并馬指歩行夫役へも昼食分夕飯迄酒茂兩度賄申候、尤五町目ニ而も賄申候

一御附使者様方江人馬御用次第差出シ候様ニ被仰付候、則左之通御附使者

讚州様分 御宿 山田 清左衛門

播摩守様分 御宿 林 平八

大学守様分 同 七軒町 九兵衛

同奥様分 同 紺屋町 喜平治

大炊守様分 同 本巻町め 伊左衛門

於喜多様分 同 曲尺手町 重衛門

上総介様分 同 弥一兵衛

英勝寺様分 同 落合 長四郎

浅草 清光寺様分 御宿 鋤屋 久円

是ハ御出無御座候、但御宮江御落付直ニ向山江御出、御帰りも町宿へ御付不被成直ニ御登り

右之通御出ニ御座候而、人馬御入用高宿々承り候而遣申候、尤御通棺後ニ御出立ニ候

一長岡御着棺注進之者七ツ半時帰り申候

一御先荷物七ツ半過分段々參り取込申候

一御用荷物并御家中伝馬之御方様無証文ニ而、前書被仰付候御

方江ハ口書衆江承り合候上ニ而差出シ申候、尤御役柄ニ而人

馬甲乙ツ御座候先江委細記シ申候

一七ツ半過々上下御役所様御出御通棺之砌、并筒屋伝六前ニ御扣に御座候

一御尊骸五ツ時之御通棺ニ御座候

一御通棺之砌表江上下ニ而罷出居候処、御通事役様其元誰ニ候哉と御尋ニ付、問屋江幡次郎衛門と申上候得者、則御通棺之砌四町目問屋江幡次郎衛門と御披露御座候

一御通り首尾能相仕舞申候段、御役所様江九ツ時御訴申上候

一九日ニ者御帰り之御方様昼之内一向御通り無御座候、人馬差出シ不申候、暮合々夜中当地御泊り之御方様御出御宿申付候

一御附使者様方九日夕御帰御宿々江御落着被遊候、尤讚州様・上総介様御使者額田江御法事之節迄御逗留此方江ハ御出無御座候

一英勝寺様御使者十日昼御帰り候処、御病氣ニ候間駕籠ニ而御出立被成度由宿々駕籠遣候様ニと申参候間御役所江右之段申上候得ハ、年寄中々駕籠并ふとん請取可申と御達ニ付直ニ年寄衆へ申出、駕籠ハ松物町市郎左衛門、ふとんハ七軒町吉兵衛所々請取申候、尤支配名主・年寄衆々差紙請取遣申候、右駕籠・ふとん之儀小幡迄御かし被遊、則御証文江小幡々宿継を以相返候様ニと御認メ、右御使者江御証文御渡シ被遊候、依長岡々十一日之朝帰り候間、則両所江相渡シ申候、勿論御荷物馬ニ而送り申候

一十日ニハ追々御供之御方様御帰り御通りニ御座候

一十日迄寄人馬ニ而継候而、十一日ハ寄七人馬不仕、馬者穀町江申遣シ継申候、人足も下町計入用之度ニ為出申候

一御使者様方十三日ニ額田江御出被成候馬之儀、是又穀町々差出申候、人足ハ御役所より歩行夫役江直ニ被仰付候

一十三日ニ御役所々被仰付候者、御大名様方々御使者御下りニ候ハ、早速為知呉候様ニ長岡江頼可遣と被仰付候、早速手紙遣申候

一御使者様方御法事相濟次第廿日ニ御帰りニ候間人馬可心懸被仰付候、尤其砌者御宿へハ御立寄無御座候筈ニ御座候
一御法事於向御山二十四日ハ廿日迄一七日御座候

覚

一継馬 式疋

一継駕籠 三挺 人足六人

一長持 壹棹 人足式人

右之通、江戸三月十四日発足ニ而常州水戸迄往来無滞継通シ候様頼入存候、已上 紀州 朝比奈惣左衛門内 那須平蔵印

三月十三日

千住宿々

問屋中

水戸迄

右御先触十六日朝長岡々当着、則御役所江懸御用候而、御先触又々長岡迄相戻シ申候、尤此方人ニ而別段ニ相戻シ申候而請取書取置申候、以上 三月十六日

右紀州様御使者長岡村江十六日昼前御着、追々為知御座候而此方江暮合会所江御着御地走御座候而四ツ時向山江御出立、尤御荷物等ハ不殘長岡江被指置候、人馬御入用辻承候処馬ハ一向入

不申候、漸御替添へ之衆吉村久蔵様駕籠人足四人、尤駕籠ふと
ん共ニ御用立申候外分持式人、都合人足六人計指出申候、右御
帰十七日夜五ツ半時御当着、会所江ちよつと御立寄直ニ長岡江
御越彼地 御泊り被成候、人馬存之外多入申候、馬五疋・人足
式拾人差出シ申候 但会所ニ而御地走御座候筈ニ而御支度御待
請被成候所、御茶茂不被召上御出立被成候

一右惣左衛門様江御地走附西道甫左方御状長岡御泊り迄被遣候
ニ付、人足式人ニ而差出シ申候、御返事請取候様ニ被仰付候
間、長岡村問屋江右御状御役人衆迄被差上、御返事請取被遣
候様ニ添状入遣候所、御返書ハ江戸方可被遣候由ニ而、問屋
方計返事参り申候、其段御役所江申上候、尤右御状御町方ニ
而御認被遣候

一尾張様御使者御先触左之通り

覚

繼人足式人

右者

尾張殿御用長持忝棹差遣候入用

繼人足拾五人

同馬 五疋

尾州

中村又蔵

右之通、明十七日朝江戸表発足水戸江相越候ニ付、宿々繼人
馬指支無之様ニ可被相心得候、依之先達而申入候、以上

三月十六日

尾州

加藤左平治

千住方長岡迄宿々問屋中

右之通、長岡方写し申参候 三月十八日

覚

一人足四人

一本馬壹疋

右者、周防守家来西内三郎衛門明十七日七ツ時江戸出立水戸
迄罷越候間、書面之人馬往来宿々無遲滞可被指出候、尤川越
舟渡之所ハ前宿方通達差遣無之様ニ可致候、以上

御老中

松平周防守家来

戌三月十六日

水野庄衛門印

千住方 水戸迄

右往来宿々 問屋中

右御先触写し取、長岡江相戻申候

三月十八日

覚

御老中阿部伊予守様御内

御使者

菅野谷源蔵様

上下拾三人

人足式人

馬 壹疋

三月十七日江戸御出立

右之通、長岡今申参候、御先触此方へハ不参候、長岡迄参り候
義と相見江申候

三月十九日

御老中松平右近将監様御使者

松平右京大夫様同

一色新左衛門様

伊藤 八平様

松平周防守様同

栗田三郎衛門様

阿部伊予守様同

菅谷 源蔵様

秋元但馬守様同

寺田利左衛門様

右尾州様御使者共ニ六ヶ所御使者長岡江十九日昼前ニ御着、御
取合之御手紙等参、勿論問屋今も追々為知申参御役所江一々申
上、早々当地江御出被遊候様ニ被仰上候様ニと問屋江申遣候ニ
付、追々暮合迄ニ当着被成御宿江御落附御地走在之、四ツ時頃
向山江御出立、翌廿日御帰り又々御地走在之、九ツ時御出立ニ
候、尤人馬心掛今沢山御入用、殊ニ駕籠御望之方多揃兼漸差出
シ申候、尤駕籠八年寄衆持前ニ候所、揃かね我々江頼ニ付、才
覚致シ差出申候

一讚州様御使者

宇野朝太左衛門様

廿日ニ御帰り御地走有之、四ツ時御出立被成候

一松平上総之介様御使者

井上 嘉内様

廿日ニ御帰り御泊り御地走在之、廿一日朝御出立被成候

一松平大学守様

御使者

松平播磨守様

廿日ニ御帰り御宿へ御立寄無之、直ニ御登り被成候

一松平大炊守様御使者

廿日ニ御帰りと相見得候得共、上町通りニ而千波御屋敷江
御出被成候哉此方江御出不被成候

右 御使者様方御宿

尾州様御使者

御会所

紀州様同

同

讚州様同

八日ニハ 山田清左衛門

廿日ニハ 御会所

松平右京大夫様

本五町目
酒ば屋清蔵

松平右近将監様

本四町目
加藤 彦市

松平周防守様

本四町目
い七屋太兵衛

阿部伊予守様

七軒町
額田屋留之介

秋元但馬守様

同町
福嶋屋惣介

右之通之御使者宿ニ御座候

右御 通棺之砌今御法事中迄、人馬勤高御役所江書上左之通、
尤御通棺之日限賃人馬継ハ五町目加藤三郎兵衛方ニ而継候間、

右之書上者三郎兵衛方々書上ケ申候
源良公様御通棺ニ付、寄人馬

覚

三月六日御用分
一人足 四拾五人 寄

式拾貳人 上御町
式拾三人 下御町

同日御用分
一馬 三拾五疋 寄

拾七疋 上御町
九疋 下御町
九疋 両穀町

同夕
一人足 四拾五人 下御町計寄

同夕
一馬 三拾五疋 寄

拾七疋 下御町
拾八疋 両穀町

同七日御用分
一人足 四拾五人 上御町計寄

同七日御用分
一馬 三拾五疋 上御町計寄

右兩日御下り之御方様一向御通り無御座候故、人馬共ニ相勤
不申候

同八日御用分
一人足 百五拾五人 寄

式百五人 上御町
式百六人 下御町
四拾人 同所急当テ

内 八拾九人
下御町式百六人之内
出不足仕候分

式人 長岡村并一里塚江御着
棺御先見ニ遣申候

六人 御役所様へ枝川迄
御使人ニ差上申候

六人 御証文步行夫指出ニ
差出シ申候

三百五拾八人 無証文御供之御方様へ
差出申候

拾人 賃夫

拾貳人 荷付手伝

九拾七人 加藤三郎兵衛方遣シ申候

五百八拾人

同七日御用分
一馬 三百五拾五疋 寄

三百疋 郷村

拾疋 上御町

拾疋 同所心掛馬

拾五疋 下御町

式拾疋 同所心掛馬

内 六拾八疋 無証文

五疋 嫁馬

壹疋 賃馬

百三拾疋 加藤三郎兵衛方江遣シ申候

残り馬百五拾壹疋

三月九日御用分
一人足式拾四人

わけ 拾式人

拾式人

寄

上御町

下御町

同日
一馬 百疋

郷村計寄

右九日御帰りの御方様御通一向無御座候間、人馬共ニ相勤不

申候

同日御用分
一人足式六拾式人

拾式人

拾式人

三拾八人

寄

上御町

下御町

同所急当テ

内 三拾四人 無証文歩夫

是ハ御供之御方様御帰り長岡迄

六人

拾式人

御会所江

賃夫

残り人足拾人

同日
一馬 百疋

内 拾六疋 無証文伝馬

ハ御供之御方様御帰長岡迄

三疋

賃馬

残り馬八拾壹疋

同日
一人足式拾式人

下御町寄

無証文

是ハ御供之御方様御帰長岡迄

同日
一同 壹人

下御町

同断

右同断

三月十六日
一人足式拾人

下御町計寄

内 六人

紀州様御使者江枝川迄

残り人足拾四人

下御町

無証文

三月十七日
一人足式人

是ハ御供之御方様御帰長岡迄

同日朝々寄
一同 八人

下御町寄

同暮々
一同 八人

同所寄

一同 拾四人

同所急当テ

三拾人

是ハ紀州様御使者御帰り長岡迄

郷村計り寄

同十九日
一人足百拾人

寄

四拾五人 上御町

四拾五人 下御町

貳拾人 同所急当テ

内 三拾四人 尾州様御使者枝川迄

六人 松平右京太夫様御使者同断

七人 秋元但馬守様御使者同断

六人 阿部伊予守様御使者同断

七人 松平周防守様同断

六人 松平右近将監様同断

九人 質步夫

是ハ御案内之御方様御入用

四人 御証文步夫指出シ

三人 長岡・枝川江為知并聞番ニ遣申候

八拾貳人

残り人足貳拾八人

三月廿日御用分
一人足貳百三拾五人

寄

百人 上御町

百人 下御町

貳拾五人 同所急当テ

三人 御賄所々借用人

壹人 本四町め長三郎人借用仕候

壹人 かきや久円人同断

壹人 するかや仁衛門人同断

壹人 井筒屋伝六人借用仕候

壹人 長倉屋孫衛門人同断

貳人 江幡次郎衛門人同断

内 七拾九人 尾州様御使者江長岡迄

三拾人 松平播磨守様御使者同断

三拾貳人 松平大学守様御使者同断

壹人 讚岐守様御使者同断

九人 松平周防守様御使者同断

拾貳人 阿部伊予守様御使者同断

拾壹人 松平右京太夫様御使者同断

拾貳人 松平右近将監様御使者同断

拾四人 秋元但馬守様御使者同断

壹人 松平上総之介様御使者

貳百三拾壹人

残り人足四人

是ハ老人・子供ニ御座候而御用ニ立不申候ニ御座候

三月廿一日
一人足拾五人

下御町

松平上総之介様御使者長岡迄

同十一日十八日迄
一馬 貳拾三疋

兩穀町 無証文

同十一日十八日迄
一馬 貳拾三疋

是ハ御供之御方様御帰リ、追々長岡迄差出シ申候

同十九日
一馬

三拾五疋

寄

訳

式拾五疋

兩穀町

九疋

八町目

内 壹疋

讚州 宗八殿御帰リ長岡迄

二疋

尾州様御使者枝川迄

残り馬三拾壹疋

同廿日
一馬

九拾貳疋

寄

式拾六疋

兩穀町

八疋

八町目

式拾疋

上御町

三拾八疋

下御町

内 式拾貳疋 尾州様御使者御帰リ長岡迄

拾壹疋

松平播磨守様御使者同断

拾貳疋

松平大学守様御使者同断

拾四疋

讚州様御使者同断

三疋

松平周防守様御使者同断

四疋

阿部伊予守様御使者同断

四疋

松平右京太夫様御使者同断

式疋

秋元但馬守様御使者同断

壹疋

松平右近将監様御使者同断

拾八疋

質馬

是ハ佐野孫兵衛様御登并ニ磐城相馬御家中御登

壹疋

上町馬病馬

九拾貳疋

残り馬なし

三月廿一日

一馬

三疋

兩穀町

松平上総之介様御使者御帰リ長岡迄

一魚蠟燭

百四拾挺

是ハ三月六日・七日・九日・十日・十六日・十七日・十九日・廿日九

夜分、問屋前江ぼんぼり二ツ宛ともし申候

右者当三月中

御通棺御用并御法事中、御使者様方江御地走人馬其外往来人

馬相勤申候高書上申候、以上

戊五月

江幡治郎衛門

御町御役所様

三月十三日

一人足四拾七人

下御町計

一馬 九疋

兩穀町

右五ヶ所御使者様江向御山江御出之節、是ハ直ニ被仰付候分
故書上不申候、重而為見合ニ為念如斯ニ候

覚

一駕籠壹挺

小櫓屋

吉郎衛門

但シ三月十九日夕廿日迄、是ハ尾州様御使者江

一同 忝挺

新町

仁衛門

同断、但シ三月十九日夕廿日迄

本四町目

太兵衛

同断、同廿日計

松物町

市郎左衛門

一同 忝挺

同断、同断

一同 忝挺

同断、讚州様御使者江

江幡次郎衛門

一同 忝挺

同断、松平右近将監様御使者江

菅 理録老

一同 忝挺

同断、尾州様御使者江

山田清左衛門

一同 忝挺

同断、同断

三間町
太兵衛

九挺

訳ケ

小槌屋吉郎衛門、新町仁衛門分二日宛、其外ハ一日宛

一かこ木綿ふとん二

本三町め
孫衛門

但シ十九日夕廿日迄尾州様

一同

七ツ

但シ廿日計

内七ツ右近将監様
内五ツ尾州様
内三ツ讚州様

同人

一同

八ツ

是ハ馬ふとんニ指出申候、但シ廿日計

内三ツ播磨守様
内二ツ大学守様
内一ツ周防守様

同人

一同

六ツ

本四町目
松四郎

是ハ馬ふとんニ指出申候 尾州様
但シ廿日計

式拾三

訳 孫衛門分二ツ十九日・廿日指出四ツニ成ル
其外ハ一日充ニ御座候

右者、去ル三月中御使者様方御用ニ而指出申候高如斯ニ御座候、以上

戊五月

江幡次郎衛門

上田作十郎様

加藤 彦市様

二(卷)

一 明和三戌三月廿一日昼八ツ半時紺屋町夕出火折節、大南風ニ而下町中不残焼失往来継不能成候ニ付、廿一日朝長岡・枝川江申遣候ハ、当所大火ニ而往来継不能成候間、暫ク御継通シ被下候様ニ両所江頼遣申候

一 持出シ人馬不罷成義と見江候間、上町江被 仰付被下候様ニ願書差出候様ニ御内意御座候間、廿三日ニ御願申候ハ、此節根出シ人馬罷成不申候間、三十日之間上町江被為仰付被下候趣願書差上候処、下町御家中様大方ハ上町江御引越故、上町ニ而茂根出し殊之外多致難義候故、永ク難相濟今廿五日より廿七日迄三日上町ニ而根出シ人馬相濟申候、依之廿八日夕根

出シ御用相勤申候、右之段名主江も廻状差出シ申候

一 往来繼之儀枝川・長岡合永々迷惑之趣申參候間入割申遣候処、追々催促御座候間、又々名主江も廻状差出シ、四月十一日合往来繼引請候間、馬持共在宅之族早々引越御用無間違勤候様ニ可申付趣廻状相廻シ申候、右引請之義枝川・長岡江も申遣候ハ、往来繼永々御世話ニ罷成候添奉存候、此方おろく小屋掛ケも出来候間、来ル十一日合往来繼引請可申候間、左様御心得当所江御送り可被成段九日ニ申遣候

右頼候日数廿日ニ御座候

一 四月十七日御祭礼ニ付、例之通十六日・十七日往来繼御通し

被下候様ニ枝川・長岡江申遣シ候

一 問屋場手前ニ而引請繼候処、取込不能成候間左之通り願書差出シ申候処、早速願之通り相済御礼ニ罷出申候、年寄・名主江も為知申候、尤願書町頭落合長四郎頼差出シ申候

乍恐口上之覚

此度出火ニ付問屋場類焼仕候故、当時手前屋敷ニ往来諸荷物繼送り申候所、先達而茂御願申上候通商売一ト通ニ家作仕候得ば、諸荷物相送り申候場所茂無御座、殊ニ詰歩行夫等指置候ニ茂手支難義仕申候、依之本三町目孫衛門屋敷問屋場ニ借用仕、往来御用相勤申度奉存候ニ付、右之段奉伺上候、以上

江幡治郎衛門

戊四月

御町御役所様

三

〇 御合力初手形相認メ差出候様被 仰付候間、酉年之通り認メ四月廿六日ニ御役所江持參致候

請取申初之事

一 初拾俵者 但四斗式升入

本四町目問屋 江幡治郎衛門印

一 初拾俵者 但四斗式升入

本五町目問屋 加藤三郎兵衛印

右者問屋役相勤候ニ付、為御合力被下置候間為請取申候、仍如件

明和三年戊四月

芦沢喜兵衛

伊藤孫左衛門

片岡左平殿

栗田仲衛門殿

西野八兵衛殿

一 御合力初手形御裏判左之通相済、十六日ニ御役所合請取申候而、酉ノ年之通御蔵手代馬場儀七殿江長左衛門を以頼申候、尤御役所江計御礼二十九日ニ罷出申候 御裏判之次第

榊原新左衛門印

矢野九郎衛門

石野 隼 太

渡辺伊右衛門印

右初御藏方々五月廿一日ニ九俵と壹斗四升壹合請取申候

四十一

○^朱本多弾正少弼、当月廿八日在所奥州泉出立、江戸江道中五日振ニ而被相越候、泊り休左之通ニ候間御承知可有之候、宿々通行之節人馬無滞被差出候様ニ頼入存候、尤宿割役人先達而罷越申可談候、以上

五月八日

新田宿々

千住宿迄

宿々問屋中

本陣中

一宿繼人足四拾五人
一宿繼馬 拾九疋

右人馬共ニ増減可有之候、宿割之者罷越可申談候

五月廿八日

小休植田

同日休荒川

泊り介川

廿九日休石神

泊り長岡

晦日休府中

泊り中村

六月朔日休藤代

泊り小金

二日休千住

右御先触写御役所江差出申候、尤介川泊り石神休長岡泊り計ヲ

書上申候

五月十一日

四十二

旦那儀、当月廿八日警城平被致発駕道中五泊六昼ニ而、六月三日江戸着之積り被罷越候、其節人馬無滞御繼立可給候、尤人馬員数之儀者近日宿割之者罷越申候節可申達候、以上

休泊寛

平出立

同日植田休

同日神岡泊

廿九日介川休

同日石神泊

晦日長岡休

同日府中泊

六月朔日中村休

同日藤代泊り

二日我孫子休

同日松戸泊

三日千住休

右之通為御心得と申達候

安藤対馬守内

五月十三日

加治清兵衛印

湯本

舟尾々

千住迄

問屋中

○^朱五

一役場五月廿三日々三町目孫右衛門方ニ而相勤申候、此談御役所江茂序ニ申上候、以上

○^六朱

一本多弾正少弼様御宿割、吉田重藏殿五月廿三日ニ至着、人馬焼印鑑壹数并人馬面付壹数、尤賃銭勘定不残相済申候、人馬高左之通

本多弾正少弼内

青山闇右衛門

一 繼人足焼印鑑回

供人馬役

一 繼馬焼印鑑回

小関清右衛門

川嶋茂右衛門

覚

一 拾壹疋 本馬宿繼

此わけ 壹疋 蓮見源七

壹疋 松田助三郎

壹疋 宮田千五郎

壹疋 八木惣兵衛

壹疋 龜田彦十郎

壹疋 川上露斎

壹疋 松田円衛門

壹疋 厩荷物

壹疋 御納戸荷物

壹疋 日雇方荷物

壹疋 付込荷物

一 八疋 輕尻宿繼

此わけ 壹疋 再南備隼太

壹疋 矢嶋甚三郎

壹疋 恵沢又市

壹疋 小関清三郎

貳疋 台所荷物

貳疋 行側方荷物

一 四拾四人 宿繼人足

此わけ 四人 壹番御小納戸長持壹棹

六人 貳番小納戸長持壹棹

四人 台所長持壹棹

貳人 台所面掛挾箱壹荷

貳人 桃灯長持壹棹

貳人 壹番合羽籠

貳人 貳番同断

貳人 三番同断

貳人 四番同断

貳人 五番同断

貳人 六番同断

貳人 七番同断

壹人 竹かうけ物壹

四人 蓮見源七駕籠壹丁

壹人 右同人具足箱壹荷

四人 桜井養祝駕籠壹丁

壹人 右同人葉箱壹荷

戊五月

○^七朱

先達而申達候通、弥来ル廿八日旦那儀被致発駕候、依之馬五拾疋程繼人足七拾人程入用ニ有之候間御心掛頼入候、尤人馬増減之義ハ追付宿割之者罷越委細可申達候、已上

安藤对馬守内

五月廿二日

加治清兵衛

湯本

舟尾

千住迄 宿々問屋中

右之通、御役所江書上申候

一安藤对馬守様御先触人足馬共ニ減少致、人足七拾人之所三拾人程馬五拾疋程之所三拾六疋程、右之通廿六日出ニ先触廿八日夜当着、御役所江其夜訴翌廿九日左之通被仰付候

一人足六拾人

三拾人

上御町

わけ

三拾人

下御町

一馬 五拾五疋

拾五疋

郷村

拾五疋

上御町

式拾五疋

下御町

内卷疋八門前

右之通被仰付候

一又々廿七日出追触左之通廿九日昼時歟着、御役所江訴寄人馬

先相延申候

旦那儀、明廿八日発駕可被致之旨先達而申達候処、病氣ニ付明日之出立相延候、日限之儀者追而可申達候、以上

安藤对馬守内

五月廿七日

加治清兵衛

〇^八卷

一本多弾正少弼様御参勤、廿九日昼九ツ半時首尾克御通相濟申候、尤問屋江例之通金百疋被下候、御役所江首尾能御通り濟候段早速訴申候

人足繼高左之通書上申候

覚

一人足七拾人

三拾五人

下御町

わけ

三拾五人

上御町

内卷人

御先見

同六人

荷付手伝

同四拾九人

相勤申候分

〃

残り人足拾四人

一馬 三拾五疋

わけ 拾式疋

上御町

廿三疋

下御町

内式拾九疋

相勤申候分

壹疋

相馬御家中下り

三疋

御評定所御用

残り馬式疋

右者本多弾正少弼様御参府御通ニ付、相勤申候人馬高書上申候、以上

戌五月

加藤三郎兵衛

江幡治郎衛門

御町御役所様

船尾〆

千住迄 宿々問屋中

右之通御役所江書上申候 六月朔日

○^米九 旦那儀病氣ニ付、今日之発駕延引之段申達候処、少々茂

快候ハ、六月朔日・二日之内被致発駕候積り候間、先達而申達候通人馬御心掛頼入候、日限之義者明日迄ニ相極尚又可申達候以上

安藤对馬守内

五月廿八日

加治清兵衛

湯本

船尾〆

千住迄

宿々問屋中

右之通先々相廻シ申候

旦那儀六月朔日被致発駕候、休泊り之儀者先達而申達候通ニ候、人馬之義左之通

一人足三拾人

一馬 三拾六疋

右之通無遅滞御继立可給候、以上

安藤对馬守内

五月廿九日

加治清兵衛

湯本

一六月朔日、安藤对馬守様御宿割安藤曾毛殿御通人馬左之通り被仰置候、則御役所江も書上申候 覚

一人足四拾五人

外ニ三拾人 分かき

〆七拾五人

一本馬式拾五疋

一軽尻拾壹疋

〆三拾六疋

此分計賃銭請取申候

外ニ五疋分かき

〆四拾壹疋

右之通ニ御座候、以上 右寄人馬被仰付左ニ 覚

覚

一人足百拾人

わけ 五拾五人

わけ 五拾五人

一馬 五拾五疋

わけ 拾五疋

上御町

下御町

郷村

拾五疋 上御町
廿三疋 下御町
式疋 門前

外二

心懸ケ馬拾疋

下御町

右之通り被仰付候、以上

六月朔日

一安藤对馬守様御參勤御通、六月三日四ツ時御通首尾能相濟申候、尤両問屋江金式百疋被下候、且御先番三人衆江三百疋、人馬指引式人衆江式百疋、都合七百疋請取申候、依人馬書上左之通

覚

一人足百拾人

訊

五拾五人

上御町

五拾五人

下御町

内式人

御先見

八人

荷付手伝

九拾人

相勤申候分

五人

岩城御寺方

残り人足五人

一馬 五拾五疋

拾五疋

上御町

訊ケ 拾五疋 郷村

式拾三疋

下御町

式疋

門前

内五拾疋

相勤申候分

式疋

よめ馬

式疋

岩城御寺方下り

残り馬壹疋

右者安藤对馬守様御參勤御通二付、差出申候人馬高書上申候、以上

戌六月三日

加藤三郎兵衛

御町御役所様

江幡次郎衛門

○^一○^一

一月番六月十七日ニ五町め江相送り申候、但シ正月廿日夕勤申候而、六月十六日迄百四拾五日勤申候

○^一○^一

一六月廿四日ニ牧野越中守様々、例之通両問屋江金百疋宛被下置候、仍而翌廿五日ニ同役御役所江訴申候

○^一○^一

一相馬讚岐守様御參勤、十月廿五日夕枝川御泊り、廿六

日朝六ツ過当御通首尾能相濟申候、尤御先触人馬左之通

一馬 百疋

一人足百人

ノ

右寄人馬左之通被仰付候

一人足七拾人

一同 七拾人

ノ 百四拾人

一馬 三拾壹疋

是ハ病馬有之如此

一同 拾五疋

一同 貳疋

一同 九拾貳疋

ノ 百四拾疋

右廿六日人馬遣高書上左之通

覚

一人足七拾人

一同 七拾人

ノ 百四拾人

内八拾三人

同五 人

同拾 人

同貳 人

同壹 人

上御町

下御町

札人足

分かき

荷付手伝

御先見

枝川村御供触刻限聞

ノ 百壹人

残り人足三拾九人

一馬 三拾壹疋

一同 拾五疋

一同 貳 疋

一同 九拾貳疋

ノ 百四拾疋

内九拾九疋

同拾五疋

同五 疋

同壹 疋

同貳 疋

ノ 百貳拾貳疋

残り馬拾八疋

右之通、相馬讚岐守様御登りニ付、人馬遣イ高書上申候、以上

加藤三郎兵衛

江幡次郎衛門

戌十月

御町御役所様

一魚蠟燭貳拾目掛 拾五挺

右者相馬讚岐守様御登御通ニ付、問屋前江ぼんぼり式ッ灯し申候、已上

覚

一人足拾貳人

一馬 拾九疋

下御町

上御町

門前

郷村

札馬

分かき

嫁馬

御肴方

岩城家中衆

右相馬讚岐守様奥方女中登り二付、寄人馬相返シ申候後、繼立申候遣イ高書上申候、以上

同十九日

老挺 尾州様御使者江額田村迄

此損料 百四拾八文

戌十月

加藤三郎兵衛
江幡次郎衛門

同廿日

老挺 尾州様御使者江長岡村迄

此損料 百四拾八文

御町御役所様

右之通書上式数三郎兵衛月番ニ而書上申候、為念手前江茂扣置申候、以上

式挺

下新町

仁衛門印

相馬様分例之通金百疋宛被下候

同十九日

老挺 尾州様御使者江額田村迄

此損料百四拾八文

一一二

御瓦屋前

吉郎衛門印

一当三月、御使者様方江駕籠并蒲団等損料、御役所江書上候様二年寄中分達有之候間、左之通書上申候、右駕籠之義年寄持前ニ候得共、御使者之節申付不間ニ合故、問屋前江頼ニ付才覚致シ差出シ申候、尤面付書付年寄中分も差出シ被申候

覚

同廿日

老挺 尾州様御使者江長岡村迄

此損料百四拾八文

本四町目

太兵衛印

三月十日

一駕籠 老挺 英勝寺様御使者江小幡村迄

同十六日

同同日

老挺 尾州様御使者江長岡村迄

同

此損料 百四拾八文

同同日

老挺 尾州様御使者江長岡村迄

同廿日

此損料 百四拾八文

同同日

老挺 讚州様御使者江長岡村迄

同

此損料 百四拾八文

同同日

老挺 讚州様御使者江長岡村迄

同

此損料 三百文

同同日

老挺 松平右近將監様御使者長岡村迄

四挺

檜物町

市郎衛門印

同同日

老挺 松平右近將監様御使者長岡村迄

江幡次郎衛門印

此損料百四拾八文 菅 理録印

一同 廿日 卷挺 尾州様御使者江長岡村迄

此損料百四拾八文

御瓦屋前

付落子分出ス

吉郎兵衛印

右駕籠ノ拾三挺

此損料鏢老貫九百四拾八文

但シ何方江成共一日百四拾八文宛之割ニ御座候

三月十日 一駕籠絹莆団卷ツ 英勝寺様御使者江小幡村迄

此損料百文

一同 十六日 卷ツ 紀州様御使者江小幡村迄

此損料百文

ノ式ツ

七軒町 吉兵衛印

三月十九日 一同 木綿莆団式ツ 尾州様御使者江額田村迄

此損料六拾四文 但シ卷ツニ付三拾式文宛

一同 廿日 七ツ 尾州様御使者江長岡村迄

此損料式百三拾式文 但シ卷ツニ付三拾式文宛

一同 同日 卷ツ 松平右近将監様御使者江長岡村迄

此損料三拾式文

一同 同日 三ツ 松平播磨守様御使者江同所迄

此損料百文 但シ卷ツニ付三拾式文宛

一同 同日 式ツ 讚州様御使者江同所迄

此損料六拾四文 但シ卷ツニ付三拾式文宛

一同 同日 式ツ 松平大学守様御使者江長岡村迄

此損料六拾四文 但シ卷ツニ付三拾式文宛

一同 同日 卷ツ 松平周防守様御使者江同所迄

此損料三拾式文

ノ拾九 本三町目 孫衛門印

一同 同日 六ツ 尾州様御使者江長岡村迄

此損料式百文 但シ卷ツニ付三拾式文宛

本四町目 松四郎印

莆団ノ絹式ツ 此損料式百文 (但シ何方へ成共一日百文宛之割ニ御座候)

木綿廿五此損料八百三拾文

(但シ何方へ成共一日一ツニ付、三拾式文ツ、之割ニ御座候)

右損料

惣ノ鏢式貫九百八拾文

右者去ル三月中御使者様方御用ニ付、右之者々為指出申候、損料書上申候、以上

加藤三郎兵衛印 江幡次郎衛門印 戊十一月

御町御役所様

右之通我々印形致差出候者共、銘々印形為致差上申候

戌十一月三日

月番十一月廿日二五町め江送り申候

一三〇

一松平大炊守様十一月廿日御死去被遊、依御尊骸瑞龍山江江戸御出棺、十二月六日五日道中ニ而十日穴入 御城下九日朝五ツ時御通棺問屋前首尾能相済申候、寄人馬被 仰付并書上左之通、尤三郎兵衛月番ニ候所病氣ニ而御雇問屋相頼候処、町頭四人共病氣其外指合、仍而四町目名主五郎衛門被仰付候、問屋前江小頭衆式人被詰候、右賄等之義者三郎兵衛仕出シ申候

一人馬先触者片倉切ニ而此方江ハ参り不申、馬岡ハ御先触写シ之由、人足式百式人・馬式拾六疋と書付参候間御役所江差出候処、御役所江ハ御若老様ハ御達之趣者、人足八拾三人・馬式拾六疋と被仰付候、此義初ニ者式百式人・馬廿六疋と被仰付候所、又々江戸表ハ御飛脚ニ弥八拾三人・馬廿六疋と御参候由八日ニ又候、件之通人馬被仰付候、且八日夕者長岡御泊りニ而九日朝六ツ時御出棺ニ候

覚

一人足六拾人 上御町
一同 六拾人 下御町

百式拾人

内式 人 長岡迄御先見

同老 人 老里塚迄同断

同八 人 荷付手伝

同五拾九人 御用夫

七拾人

残り人足五拾人

一馬 式拾疋

一同 式拾疋

四拾疋

内式拾老疋 御用勤

残り馬拾九疋

式拾目掛
一魚蠟燭拾五挺

是ハ問屋前江ぼんぼり式ツとぼし申候

右寄人馬之外

一賃人足式人

一同馬 三疋

是ハ中山与惣左衛門様江

但シ私之扣ニ御家之御附使者、尤大御番頭ニ御座候、依賃錢相済申候

右者松平大炊守様御通棺御用人馬相勤申候高書上申候、以上

戌十二月

御町御役所様

飯沼五郎衛門
江幡治郎衛門

右人馬之儀、御地走故賃錢請取不申候、尤御帰リニハ賃錢請取候様被仰付候、以上

亥二月月番

江幡治郎衛門

一四

○(朱)源良公様当廿日御一周忌ニ付、向於御山十八日夕廿日迄

二夜三日之御法会、依之讚州様并御連枝様御代拜御下リニ候所、江戸表御出立日限未夕不申来候ニ付、長岡江御着ニ候ハ、彼地ニ少シ御猶予ニ而御出被遊候様ニ被仰上被下候様ニ、尤早速御人数委細為御知被下候様ニ長岡問屋江態頼可遣旨、御役所ノ十四日夕被仰付候間、早申遣候所承知之趣申来、追々御着之次第申参、直ニ御役所江訴申候、尤御使者宿御町内ニ類焼後座敷出来候方無之ニ付、吉田大宮司・谷津常光院・万海寺御宿被仰付、上ノ御修覆被遊候、御賄所大宮司ノ御仕出シ、御役所ニ而も大宮司ニ十六日より廿日迄御詰被成候

一松平上総之介様御代拜者、於此方御頼ニ而御夫役被仰付候段御達ニ御座候

一松平播磨守様御代拜小川十衛門様長岡江御着之由申来リ、尤侍分二人・仲間三人、上下六人ニ而御出被成候由為知申参候、

二月十六日八ツ半時早東大宮司江申出候、夕方御当者万海寺御宿御泊リ、翌十七日四ツ時向御山江御出立、人足五人・馬壹疋御入用御証文ニ而夫伝馬差出シ申候

一松平能十郎様御代拜宮上兵左衛文様、御下リ長岡ノ千波江御

廻り上町御通ニ而、直ニ額田江御出被成候間、下町江ハ御懸リ不被成候由、長岡ノ十六日ニ播州様為知と一同申参候故、是又御役所江申出候

一松平大学頭様御代拜富仲權平様、十七日昼時松川ノ問屋前江御出ニ候間、上ノ御地走在之候間、御宿江御出被成候様申上候処、難有奉存候得共急キ申候間、罷越申間敷候間、御役人様中迄可然御礼頼入候段御挨拶ニ候、夫伝馬御証文被下候様ニと有之所、御急候故枝川江夫伝馬御出し可被成段、段々御申送り被成候様ニと歩夫之者江口上ニ而申遣候、尤侍分式人・仲間三人、以上六人歩夫五人・馬壹疋御入用差出シ申候

一讚州様御代拜長谷川多門様、十八日長岡江御着之由九ツ時申参、早速大宮司迄罷越御役所江申上候、侍分三人・仲間十人上下拾四人御出被成候由申参候、御宿大宮司ニ御座候

尾州様・紀州様其外御出入御大名様方ノ御使者ハ御下リ不被成候由、十四日ニ於御役所ニ御達ニ御座候

一讚州様御使者、大宮司江御着御地走在之、昼七ツ半時御出立、歩夫七人・馬七疋穀町ノ枝川迄差出申候、御地走附酒井道本を御使役御老人、御町奉行様ニ茂御兩人御出被遊候、尤向山迄右御使役様御案内ニ御座候

先触

一伝馬壹疋
一步夫五人
右者

松平大学守様御代拜御使者富仲權平様、今日向御山ノ松川江御

掃被成候間、件之人馬例之通御出置無滯御繼立可被成候、仍先
触如此御座候、以上

亥二月廿日

江幡治郎衛門

坂戸村々

大貫村迄

右御庄屋衆

右之通相認メ出シ申候、以上

一讚州様御使者、御歸り御地走御請不被成、廿日七ツ時長岡御
泊りニ而御通被成候、伝馬六疋・步夫拾人差出シ申候

一大学様御使者廿日七ツ時御歸り、御泊り谷津常光院御宿御地
走御座候而、翌廿一日四ツ時御出立、伝馬壹疋・步夫五人差
出申候

一播磨守様御使者廿日七ツ時御歸り、御泊り谷津備海寺御宿御
地走御座候而、翌廿一日四ツ時御出立、伝馬壹疋・步夫五人
差出申候

〇^{一五} 一例年之通、御合力初手形明和四年亥三月指上申候事

〇^{一六} 一去戌三月、御使者御用ニ而差出シ申候駕籠并蒲団損料、

先達而御役所江書上申候処、此度年寄中々ノ鑓貳貫九百八拾

文請取申候而、早速呼寄相渡シ左之通印形取申候、右之書付
御役所江差上可申候哉相同申候所、其方江指置候様ニ被仰付
候間手前江仕舞置申候、則左ニ

覚

戊三月十日・十六日・廿日
一鑓六百文

駕籠四挺

檢物町市郎左衛門印

但シ壹丁ニ付何方へ成共一日百四拾八文宛

同十九日・廿日
一鑓三百文

同式挺

下新町仁衛門印

右同断

同十九日・廿日
一同三百文

同式挺

御瓦屋門前吉郎衛門印

右同断

同廿日
一同百四拾八文

同壹挺

山田清左衛門印

右同断

一同
一同百四拾八文

同壹挺

本四町目太兵衛印

右同断

同廿日
一鑓百四拾八文

同壹挺

江幡治郎衛門印

右同断

一同
一同百四拾八文

同壹挺

田中町太兵衛印

右同断

三月廿日
一同百四拾八文

同壹挺

菅 理録印

同十九日・十六日 絹駕籠蒲団式ツ 七軒町吉兵衛印

但シモツニ付何方へ成共一日百文宛

同十九日・廿日 一 鑿六百三拾式文木綿蒲団十九 本三町目孫衛門印

但シモツニ付何方江成共一日三拾文宛

同廿日 一同式百文 同 六ツ 本四町目松四郎印

右同断

ノ鑿式貫九百八拾文

右者去戌三月

源良公様 御通棺之節御法事中、御使者様方御用ニ而為指出申候、品々損料被下置候ニ付頂戴仕為請取申候、以上

加藤三郎兵衛

亥三月

江幡治郎衛門

御町御役所様

一七
○(卷) 一馬金拝借馬之内八両宛拝借之分、去戌暮切ニ而納切申候間、又々左之通り願書差上申候、尤前日年寄中江一ト通り

為見申候而、其後御役所江同役差上申候

乍恐書付を以奉願上候事

一下御町往還馬数年々相減申候而、前々馬金拝借相願申候度毎ニ申上候通、当時馬数廿五疋ならでハ無御座候、此内ニ茂病馬又者当七年以前巳年馬金拝借被 仰付候、馬持共去ル成

暮迄上納仕候ニ付、当春ハ自分馬ニ罷成申候ニ付、勝手ニ売払申候所存之者相見江申候、左候得者段々馬数相減申候義と奉存候得者、往還御用ハ物置 御上之御用御家中様方御用も手支申候程之儀ニ奉存候

一御用之儀者 御城御評定御蔵方・御買物方・御肴方并御家中様方、往還之義ハ御代官、御領府中松川御陣屋・笠間・岩城・相馬者常輪之通、其外仙台・南部・秋田家中・津輕筋之通先年者無御座候所、近キ頃ハ不時ニ御通り御座候故、無馬数ニ而者別而難義仕候義度々御座候、御当地之様子御存知之方者左様ニ茂無御座候得共、不勝手之衆中ハ被致立腹候得共

御城下之事故諸事指扣被申候義とハ奉存候得共、下々之族者遠慮無之凶事等も出来可申哉と安心不仕候、左様之節者鄉村ハ罷越候、薪売等之馬を雇、又者小竊・長岡・枝川等ハ商人荷物附參候馬ヲ相雇、附送り間ニ合候義も度々御座候、夜中又者左様之馬も無御座候節ハ至極迷惑仕候ニ付、御願申上候者馬老疋ニ付御金八両宛四拾疋分、前々之通五ヶ年賦ニ上納拝借被為 仰付被下置候様ニ奉願上候、右之通往還馬不足ニ而至極難義仕候間、御仁恵之御了簡を以願之通被為 仰付被下置候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上

明和四年

加藤三郎兵衛

亥三月

江幡治郎衛門

御町御奉行所様

右之通相認め、同役月番差上申候、亥三月十三日
先達而被願出候馬金、老疋ニ而金八両口金百六拾兩拝借、当亥

暮々五ヶ年賦上納ニ相済候条、前例之通取計可被有之候、已上

四月十九日

右之通御役所々申参候間、前例之通両御奉行様并上下御役所江御礼ニ兩人一同罷出候

四月廿日

右拝借金相済候ニ付、左之通名主江廻状廻シ申候

口上

馬金拝借相済候ニ付得御意度候間、明廿二日五ツ時三町め孫衛門所江御出待入申候、以上

加藤三郎兵衛

四月廿二日

江幡治郎衛門

高部 喜十様

嶋 与左衛門様

組河原四郎兵衛様

田中五左衛門様

飯沼五郎衛門様

山田市郎衛門様

矢口吉左衛門様

金沢武左衛門様

竹内吉郎左衛門様

山田武兵衛様

塩ヶ崎伊左衛門様

此廻状留り御返シ可被成候、以上

拝借仕馬金之事

文金百六拾両小程

亥暮々卯暮迄五ヶ年

老ヶ年ニ三拾貳両ツ、

右者下御町往還荷物附申馬不足ニ付、為馬金無利ニ拝借仕候処実正ニ御座候、但上納致様者亥暮々卯暮迄、前書金割之通五ヶ年々毎暮上納可仕候、尤面付手形私共方江取置申候間、連割之内死失絶前御座候ハ、相残之者共為相弁、屹ト上納可仕候、依如件

問屋

加藤三郎兵衛

明和四年亥四月

同

江幡治郎衛門

御町年寄

上田 作十郎

同

加藤 彦市

同

岩田太郎衛門

右之通為致拝借候、遅々仕候ハ、我々共々申付上納可為致候、以上

芦沢喜兵衛

伊藤孫左衛門

桜井 庄藏殿

長谷川軍之衛門殿

右之通相認め、年寄印形者我等相廻り為致印形御役所江持参致候、尤右下書立紙認め仕舞置申候

四月廿四日

一馬金拝借手形御裏判相済、五月朔日御役所々相渡り申候、尤左之通り繼印上江御用人様御老人、御判中々上下江両御町奉行様御判、御役金奉行様御名当先江御用人様御三人、御性名御判ハ御兩人様、尤榊原新左衛門様・石野隼太様・野村惣衛門様、裏江御若老様・小山小四郎様・佐野孫兵衛様御兩人様、御性名御判者孫兵衛様計別紙大吟味方忠衛門様より御役金奉行桜井庄藏様江無判之御差紙受取申候、右御手形并ニ御指紙、翌二日我等御役金方江持参仕、拝借金御渡シ被下候様ニ願候所、未夕御若老衆々御断無御座候間難相渡候、罷歸り

御町方江訴御改相廻候様ニ可仕、御断次第相廻り候ハ、明日御金可相渡候旨御挨拶ニ候間、罷歸り御役所江御若老様々御断相廻候様ニ願申候

一 毎々右手形五数并ニ去戌暮可皆納手形壹数、都合六数小手形持参仕、引替申候而御役所江相納申候

一 又々三日ニ御役金方江罷越候所、今日御断相廻り候間、御金可相渡よし御挨拶、手形差上金百六拾兩小程請取申候

一 拾兩馬金之方去暮上納分四拾兩之所、当二月兩度ニ式拾九兩上納相残拾壹兩御座候処、同役方ニ而内々申訳致置候間、此度右拝借金受取之上元利上納仕、かり手形廿九兩分式数相返シ本小手形四拾兩之手形受取申候、尤利足金壹兩四百八拾又、但シ壹ケ年之分相納申候、右滞人者本三町目孫衛門金壹兩、本七町目支配持分金三兩、七軒町貳兩、曲尺手町二兩、八町目三兩、金拾壹兩、右兩日共ニ馬指壹人・詰歩行夫壹人召連申候

右之通御金相請取直ニ御役所江罷出申上候、尤小手形も懸御目ニ申候、右金子御町年寄上田作十老殿江封印ニ而左之通相渡置申候、金百四拾七兩三分五百四拾壹文也

一名主江弥御金受取候間、明四日か六日ニ於三町目上田氏ニ可相渡候と面附等御極メ可被対談致候所、四日ハ不間似合六日ニ相渡候筈ニ相極り候

一 式拾疋分之拝借ニ候所、願人四人支配持拾壹疋相残り、五疋分限役ニ相極り都合式拾疋ニ拝借人ニ罷成候

一同六日ニ上田氏江名主中寄セ馬金左之通渡申候、此面付帳折

紙ニ而印形致シ御役所江我々々差出申候、尤渡候節三年寄衆出座被致候、又立紙壹数請人印形付年寄中我々々テ名ニ而認メ、名主・拝借人印形致シ上田氏江御取置被申候、是ハ上田氏ニ而認メ申候、右之折紙面付帳七日朝御役所江我等持参仕候、初拝借金渡候義前々ハ請取申候、翌日渡候所、当年八名主方相談埒明不申候故、六日迄延引致候、重而者願濟候ハ、早速ク極メ置請取候、翌日無相違渡シ可申候

一 右折紙面付帳并ニ上田氏江取置候立紙、右式通下書仕舞置申候

馬金拝借面付帳扣

一 金八兩 此馬壹疋 台町名主 喜十郎 一金八兩 同 七軒町名主 与左衛門

一 金八兩 同 式町名主 四郎兵衛 一金八兩 同 肴町名主 五左衛門

一 金八兩 同 本四町め名主 五郎衛門 一金八兩 同 塩町名主 吉左衛門

一 金八兩 同 本五町め名主 市郎衛門 一金八兩 同 本七町め名主 武左衛門

一 金八兩 同 曲尺手町同 吉郎左衛門 一金八兩 同 八町め名主 武兵衛

一 金八兩 同 下新町同 伊左衛門 一金八兩 同 肴町 吉郎衛門

一 金八兩 同 本四町目 藤衛門 一金八兩 同 本六町め 平兵衛

一 金八兩 同 裏六町め 嘉兵衛 一金八兩 同 本七町め 市郎兵衛

台町 一金八両 同 八 蔵 一金八両 同 紺屋町 文衛門

香町 利兵衛 一金八両 同 裏式町め 甚七

但シ当亥暮夕卯暮迄五ヶ年賦、老疋ニ而金壹兩式步銀六匁

宛 惣ノ金百六拾兩 此馬式拾疋

右者、下御町往還馬不足ニ付、我々拝借仕候処実正ニ御座候、
上納致様者当亥暮夕卯暮迄五ヶ年賦、無利金三拾式兩宛每暮屹
ト上納可仕候、若拝借人之内死失絶前御座候ハ、相殘連判之者
共相弁上納可仕候、仍如件

明和四年亥五月

前書之通、御金御定之通每暮無遅々上納可為仕候、以上

問屋

加藤三郎兵衛

同

江幡治郎衛門

御町年寄

岩田太郎衛門

同

加藤彦市

同

上田作十郎

御町御役所様

右之通認メ印形いたし、我等七日ニ御役所江持参仕候、以上、五月七日

一八

○五月十二日ニ、井筒屋伝六所ノ車ニ而太物九固り、駄ニ

積り式駄半程積川岸出シ候間、早速馬方跡ノ追懸ケ引戻シ候様
ニト申遣候、名主五郎衛門江も役人遣候様ニ申遣候得者、十人
組太兵衛罷越候ニ付、只今伝六方ノ太物車ニ積川岸江出候、御
法度之儀如何相心得積出シ候哉早速引戻シ候様ニト申遣候、御
役所江も御訟申候間、左様被心得候様ニト太兵衛江申談候、左
候得者名主方ノ御訟之義、少之間扣呉候様ニト申参候間、暮過
迄差扣申候、尤右太物暮前ニ川岸ノ引戻シ申候由申出御座候、
右ニ付谷津常光院罷越、伝六方ノ佗被頼申候ニ付致伺出候、不
調法之段恐入候、何卒御内内御見濟被下候様ニト十二日夕三度
被参候、又候十三日兩度被参候、又十三日四ツ時右宿常照寺使
僧被参、十四日ニ茂兩度御兩人共ニ御出、都合常照寺使僧四度、
常光院七度被参候間、御両所江内々見濟遣申候事

一九

○一明和四年亥七月二日ニ、牧野越中守様ノ例年之通り我々

江金百疋宛被下置候、右之段御役所江申上候

二〇

○一明和四年亥八月七日、安藤対馬守様御国入御通行首尾

克相濟申候所右二付

一被下物無御沙汰御通ニ候間、枝川迄否相伺頼遣候所、翌八日石神の御失念之由ニ而、我々江例之通金百疋宛被下置候、且又御先番衆三人問屋前人馬指引衆式人、右五人江酉・戌兩年共ニ金百疋宛給候所、御先番衆江計五百文宛三人前被下置候、依之御役所江右之段詔候得者、前例之通不被下候者如何之事ニ候哉、先様御役人江伺呉候様ニ、石神問屋江頼可遣旨被仰付候間、則石神の之使之者江問屋迄書状を以頼遣申候、追而様子相知可申候

二一
○朱
覚

一問屋前人足諸向之御用并府中松川不時之御用往還筋之儀者、小名浜塙御領其外奥筋御代官様方之御用岩城・相馬・和泉・湯長谷・棚倉、是ハ常例外近年南部・仙台・津輕・秋田等之家中交代諸荷物少々宛も相通り申候、馬計ニハ無御座駕籠・歩行夫持、諸人足先触御座候節者拾人と申、先触江ハ十三・四人も指出置申候儀ニ御座候得ば、思召之外人足も多ク入申候義ニ御座候

一御家中様方江戸御登又者向御山、山之御寺・瑞龍御出之節者差出申候人足茂五人之御入用者六・七人茂差出シ置申候、殊更江戸御登り等之節式人持と申候御長持ハ三人ニ而茂参兼候儀、度々御座候得者、ケ様成節者存之外余慶人足指出申義ニ

御座候

一御城御評定所の持出申候、御荷物ニ輕キハ稀ニ而重キハ度々御座候義ニ御座候得者、申参候人数之外ニ過人心懸差置申候、尤諸人足之儀者台町の新町迄順番にて相勤申候義ニ御座候処、順番ニの歩行夫役之者共直当ニ仕候所、又者其町之定使当テ申候所も御座候故廻り、前々の遅速在之、別而難義仕候義ニ御座候、然者諸人足上下御町半々ニ致候様成ル義ニも御座候得者、外之儀者何れニも罷成申候様成御指図ニも可被下候得共、問屋前之儀者台町・新町之遠所ニ茂こまり申候義ニ御座候得者、上町の参候刻限之程間違等茂出来可申哉、第一御用御手支ニ茂罷成可申哉安心不仕奉存候、依之只今迄之通被仰付被下置候様ニ仕度奉存候、以上

閏九月

兩問屋

右者、御内々鼠町ニ而計御聞置被成度旨、年寄衆の名主江内々咄御座候ニ付、名主の申参書出候、尤年寄中の申参候者兩問屋といたし、先々当テ名なし亥年之亥ノ字ヲ不書内々出候様ニ申参、件之通認名主迄遣申候、右趣意内々承候者諸人足上下御町入込ニ半々ニ出シ申度旨、上町の願出候振、仍之右願之通濟候字者、障り等次第有之候ハ、書出候様ニと、御内々問屋名主江被仰付候事ニ御座候、以上

亥閏九月八日

二二
○朱

一明和四年亥十二月十日、吉町目於御会所ニ同役一同罷

出、被仰付馬金上納取立之儀、是迄三郎兵衛方ニ而年来取立候処、三郎兵衛無人ニ茂在之迷惑之趣ニも内々相聞候間、当暮合治郎衛門方ニ而取立候様ニと被仰付候、尤加藤彦市殿出座被致候、依之当暮合手前ニ而取立申候ニ付、廻状左之通り相廻シ申候

馬金上納之儀当廿五日迄上納致候様ニ拝借人江御達可被成候、年年日限遲滞致候間、弥廿五日迄ニ無間違上納可被仰付候、已上

十二月十九日

| | | |
|---------|----------|----------------|
| 高部 喜十様 | 嶋 与左衛門様 | 加藤三郎兵衛 |
| 田中五左衛門様 | 飯沼五郎衛門様 | 江幡次郎衛門 |
| 高橋伝五衛門様 | 金沢武左衛門様 | 組河原四郎兵衛様 |
| 山田 武兵衛様 | 塩ヶ崎伊左衛門様 | 矢口吉左衛門様 |
| | | 竹内吉郎衛門様 |
| | | 当此廻状留り合御返し可被成候 |

二三
○(朱) 乍恐書付を以奉願上候事

一近年御町困窮仕候義者、御役所様被為遊御存知候御儀ニ御座候所、去戌年類焼以後不商故難義仕、其上当夏中迄米穀高直ニ而輕營ニも指詰り、漸相統申候躰ニ御座候、別而当暮之義者不商ニ御座候而、馬代御金上納出来不申ニ付奉願上候者、当暮上納分来子三月上納ニ被為 仰付被下置候様ニ奉願上候、尤去戌之焼拝借上納も才覚出来不申候上、又々馬金迄之才覚

相納兼難義仕申候ニ付、御慈悲之御了簡を以奉願上候通被為 仰付被下置候ハ、一同難有仕合ニ奉存候

| | |
|--|---------|
| 台町名主 | 喜十郎印 |
| 七軒町名主 | 与左衛門印 |
| 本式町名主 | 四郎兵衛印 |
| 看町名主 | 五左衛門印 |
| 本四町名主 | 五郎右衛門印 |
| 志保町名主 | 吉左衛門印 |
| 本六町名主 | 伝五衛門印 |
| 本七町名主 | 武左衛門印 |
| 曲尺手町名主 | 吉郎左衛門印 |
| 八町名主 | 武兵衛印 |
| 下町新名主 | 伊左衛門印 |
| 前書之通願出申候ニ付、取次差上申候願之通被為 仰付被下置候ハ、私共一同難有仕合ニ奉存候、以上 | |
| 明和四年亥十二月 | 加藤三郎兵衛印 |
| | 江幡次郎衛門印 |
| 御町御奉行所様 | |

十二月廿四日、右願書同役持参いたし候、以上

一旧冬名主共々願出候馬金上納御延之願書相濟不申、去ル四日ニ相返り申候、当月中上納仕候様ニ被仰付候、依之廿六日迄ニ上納仕候様ニ名主中江申談候所、廿八日夕迄上納仕度と達而頼ニ候間、廿八日ニ者無間違上納被致候様ニ同役方にて申談候事

二四

○^朱一源良公様御三回御忌ニ付、向御山ニ而十八日夕廿日迄、

二夜三日之御法事被為遊候、依之御連枝様方御使者御下り長岡江御着被遊候ハ、御性名上下人別早速為知呉候様ニ頼可遣と十四日ニ被仰付候間、同役方以手紙頼申遣候

一十六日八ツ時長岡手紙参候者、播州様御代拜小川十衛門様、只今御当着被遊候間為御知申候

一熊十郎様御代拜者、千波御屋敷江御出、其御元江者御廻り無御座候由、右十衛門様之為知一同手紙参り申候、仍右之段御役所江早速訴申候、尤御宿之義ハ川岸富治郎方讚州様御宿清三郎、播州様御宿与惣治、大学守様御宿被仰付候、御賄者富次郎方仕出シ申候、御役所様ニも富次郎方ニ御出張ニ御座候

一御支度宿讚州様

酒者屋 利介

一同 播州様

松屋 茂兵衛

一同 大学守様

吉野屋小兵衛

右三軒江被仰付候

一右十衛門様、茂兵衛所江御着御家来人数承候所、若堂式人・

仲間三人、仍川岸へ申遣候、然ル所かし清三郎方支度出来兼、茂兵衛所へハ八ツ半過御着候処、暫ク御扣被下候様ニ可仕と御役所被仰付、兩三度川岸へ催促漸出来、暮少シ前ニ茂兵衛所御立川岸へ御出被成候、尤同心衆台町御案内被致候

一大学守様御代拜飯野助七様、十七日四ツ半頃松川より御当着、御地走宿江御立寄無之直ニ向御山江御出ニ御座候、歩伝馬御証文川岸相請取御家来衆江相渡申候、尤御帰り之節ハ御地

走御請被成候筈ニ御座候、若堂衆式人・仲間三人、上下六人に御座候、歩行夫五人・馬壹疋指出シ申候、馬ハ穀町出ル右助七様御役御代官役ニ御座候由、勿論御支度宿江も御立寄無之候

覚

一継人足式人

一繼馬 壹疋

右者、二月十六日江戸発足ニ而罷下り候ニ付、宿々人馬無差支出可給候、以上

高松家中惣山権蔵内

子二月十五日

小池与七

武州千住

常州水戸迄 宿々問屋中

右先触長岡夕十七日夕五ツ時至着、早速御役所へ持参御目にか

け申候所、明日此方御着之砌御家来衆へ相返候様被仰付候

一惣山権蔵様、十八日四ツ時長岡江御着之由、長岡問屋新五左

衛門より以手紙申參候、早速川岸迄罷越御役所江申上候得者、御当着ニ候ハ、御支度次第御出被成候様ニ可仕と被仰付候、且上下拾式人と計長岡申參候

一右権蔵様同八ツ時五町目利介所迄御着、依之若堂衆へ人別承候処、若堂三人・仲間八人、都合上下拾式人ニ御座候、依之早速御着之次第并若堂三人・仲間八人、都合拾式人ニ御座候由、御役所江申上呉候様ニ林平八方迄書付を以申遣候

一右先触利介所ニ而若堂衆江相返シ申候、此方々向御山迄ハ人馬御馳走ニ差出シ申候間、御先触ニ及不申候間御返シ申候、尤人馬証文於御馳走御宿ニ町役人々御渡シ可申候間、御請取可被成と申談候、仍而人馬入高承候者左之通り

一歩行夫九人

一伝馬 六疋

穀町々出ル

右之通差出シ申候、且利介所八ツ過ニ御立ニ御座候人馬ハ川岸迄遣申候

一権蔵様、冨次郎方七ツ過ニ御出立ニ御座候

覚

一繼人足四人

一繼馬 壹疋

右者、二月廿日水戸発足ニ而罷登候ニ付、宿々人馬無差支出可給候、已上

高松家中惣山権蔵内

子二月十九日

小池与七

常州水戸々

武州千住迄 宿々問屋中

右先触添翰ニ而、額田々我々方江頼參申候、尤中主仁左衛門様代川上与介殿、添書刻付村次を以枝川々請取、早速長岡江相送り申候、且長岡へ申遣候者昨日枝川迄伝馬六疋・歩行夫拾式人差出候間、明日も右之振合と相見へ候段、殊ニ者小幡迄ハ歩人馬証文御持參被成候間、其御心得を以御取計可被成と手紙を入遣シ申候

一大山佐左衛門殿・中田富衛門殿江小嶋藤八殿・小池与七殿々
老通我等方江頼參候間相届ケ申候

二月十九日

覚

一歩行夫拾式人

一伝馬 七疋

是ハ讚州様御代拝様分

一歩行夫五人

一伝馬 壹疋

右者大学守様御代拝様分

右者、明廿日五ツ時々寄せ可申候由、歩行夫役馬指江申付候

二月十九日

一讚州様御代拝、廿日八ツ半過御通り首尾克長岡村江御送り申候、伝馬九疋・歩行夫拾式人指出シ申候、仍而御役所へ早速訴申候

一大学守様御代拝八ツ半時分河岸与惣治所江御着御泊りに罷成

御馳走御座候、明日六ツ半時御出立之由、歩行夫六人・馬壹疋御入用申付指置候、尤坂戸江も明朝御出立ニ罷成候之由又々申遣候

一右御代拜、廿一日四ツ時御出立ニ御座候、人馬六ツ時差出申候

二五
○朱 未年馬金拝借面付、但シ壹疋ニ付金拾兩宛式拾疋分

- | | | | | | |
|------|--------|------|------|--------|------|
| 一金拾兩 | 台町名主 | 喜十郎 | 一金拾兩 | 七軒町名主 | 与左衛門 |
| 一金拾兩 | 紺屋町 | 権八 | 一金拾兩 | 本式町名主 | 四郎兵衛 |
| 一金拾兩 | 本式町め | 茂兵衛 | 一金拾兩 | 肴町名主 | 五左衛門 |
| 一金拾兩 | 肴町 | 利兵衛 | 一金拾兩 | 肴町 | 平治衛門 |
| 一金拾兩 | 本四町め名主 | 五郎衛門 | 一金拾兩 | 本四町め | 太兵衛 |
| 一金拾兩 | 本五町め名主 | 市郎衛門 | 一金拾兩 | 本六町め | 伝五衛門 |
| 一金拾兩 | 本六町め | 善左衛門 | 一金拾兩 | 同町 | 藤十 |
| 一金拾兩 | 塩町名主 | 吉左衛門 | 一金拾兩 | 本六町め名主 | 武左衛門 |
| 一金拾兩 | 曲尺手町名主 | 吉郎衛門 | 一金拾兩 | 曲尺手町 | 孫市兵衛 |
| 一金拾兩 | 八町め名主 | 武兵衛 | 一金拾兩 | 下新町 | 伊左衛門 |

ノ式拾疋

右未年ノ亥年迄、五ヶ年無利足ニ上納可仕候処、西ノ暮者上納御延被下置候間、老ヶ年相送レ子暮迄上納可仕事

一馬金取立二月廿九日昼時迄、漸金四拾式兩壹分拾式匁取立申候間、金四拾兩相納可申と存候処、御役金方御役所相引間ニ合不申候間、翌三月朔日持参内納ニ仕、残金近日三拾式兩上納可仕と御願申上候

一無利足諸拝借金、二月三日迄上納仕候得者、無利足四日ノ者利足壹ヶ年分御取上ニ御座候、依之馬金上納旧冬相納、残りハ正月中之内不残上納可仕候

二六
○朱 覚

- 一蠟燭拾九挺 是ハ明和三年戊三月六日
- 源良公様、御通棺御用并ニ御先番之御家中御通ニ寄馬参候ニ付、問屋前江ばんぼり式ツ燈申候
- | | |
|--------|---------------------------|
| 一同 拾九挺 | 同七日右同断、御通ニ付ばんぼりニツ燈申候 |
| 一同 拾八挺 | 同八日通棺ニ付寄馬参候間、問屋前ばんぼりニツ燈申候 |
| 一同 拾六挺 | 同九日右御供之御家中御帰リニ付、ばんぼりニツ燈申候 |
| 一同 拾六挺 | 同十日右同断、御帰リニ付ばんぼりニツ燈申候 |
| 一同 拾三挺 | 同十六日紀州様御代拜御通ニ付、ばんぼりニツ燈申候 |
| 一同 拾三挺 | 同十七日右御代拜御帰リニ付、同断 |
| 一同 拾四挺 | 同十九日尾州様御代拜御通りニ付、同断 |

一同 拾五挺 同廿日所々御代拜御帰リニ付、同斷

一同 貳拾挺 是ハ明和四年亥四月廿九日相馬讚岐守様御通ニ付、ぼん

ぼり式ッ燈申候

蠟燭百六拾挺 此代鏝三貫貳百文

右之通、売上代鏝此度不殘請取申候、以上

駿河屋仁衛門印

右者、明和三年戌三月ハ亥四月迄、御用并ニ相馬讚岐守様御通

問屋前江寄馬參候ニ付、ぼんぼり燈申候、蠟燭代鏝此度請取相

払申候、以上

明和五年子三月

加藤彦市殿

江幡治郎衛門印

二七
(米)

○乍恐口上書を以奉願上候事

一去亥暮上納分、馬代御金上納出来不申候ニ付、当子三月中上

納ニ被為 仰付被下置候様ニ奉願上候所、御故障之儀御座候

ニ付、二月四日願書御返被遊候、就夫拜借人共江茂其段申付

候処、去暮ハ当春ニ至不商故、附出シ荷物并ニ往来駄賃茂無

御座、其上今以米穀高直ニ而、今日之輕營ニも指支申候程之

振合ニ而才覚も罷成不申、御金高之内漸四拾兩、当一月中上

納仕申候、然ル所右四拾兩并殘金江茂遲滞之利足相掛り申候

由、御役金方御役所様ハ御達シ御座候、左候得者極窮之者共

ニ而元金上納も罷成不申候上、御利足共ニ取立申候義弥以難

儀仕申候、依之奉願上候者御慈悲之御了簡を以、御利足之儀

者御免被遊被下置候様ニ奉願上候、尤殘金上納延引仕候段奉
恐入候得共、當時御祭礼指其外納筋過半出辻多御座候而難義
仕候、依之殘金之儀者四月中迄ニ屹ト取立上納可仕候、御仁
惠之御了簡を以是又奉願上候通被為 仰付被下置候ハ、私
共一同難有仕合ニ奉存候

台町名主
喜十郎

七軒町名主
与左衛門

本式町名主
四郎兵衛

肴町名主
五左衛門

塩町名主
吉左衛門

本六町名主
伝五衛門

本七町名主
武左衛門

曲八手町名主
吉郎左衛門

八町目名主
武兵衛

下新町名主
伊左衛門

前書願出申候通、去亥暮上納之儀当三月上納ニ被為 仰付被下
置候様ニ私共一同奉願上候処、御故障ニも罷成申候ニ付、二月
四日ニ願書御返被為遊ニ付、早々上納仕候様申付候得共、困窮
之者共故皆済茂罷成兼申候由、何分恐入奉存候得共、二月晦日

迄に漸金四拾兩取立申候ニ付、御役金御役所様迄持参仕候得共、御役所様も御引被遊候ニ付、翌朔日ニ上納仕候、残金三拾貳兩當時取立ニ相懸り罷在申候内、御役金御役所様を馬代御金上納延引ニ付、残金之儀者猶更先達而上納仕候金四拾兩江も遲滞之御利足相懸り申候由被為 仰付候間、名主共江も右之段申付候ニ付、前書之通願出申候間取次差上申候、困窮之儀者願書差上申候、度度ニ申上候様ニ而恐入奉存候得共、當時甚夕困窮仕候儀御座候得ハ、何分願之通遲滞御利足御免被下置候ハ、私共一同難有仕合ニ奉存候

明和五年子三月

加藤三郎兵衛
江幡治郎衛門

御町御奉行所様

右願書之儀者、利足付ニ罷成候趣、御役所ニ而及御聞拜借人共難義可仕候間、内々得ト承届ケ何卒利足差出不申候様ニ、内々執計茂可有之と御内々御差図御座候間、津田氏江相頼申候所、於役所ニ致相談候而挨拶可致旨依之相待候所、御法を遲滞致候間四拾兩江も利足掛り候由、兎角願書差出シ可然と答御座候間、左之通願出指上申候、尤旧冬指上候願書御若老様を御役金方江右願出差出シ候次第、御達茂無御座候故、利足付ニ罷成候趣ニ御座候、重而右等之願書指上候ハ、御役金方江も御達相廻り申候哉内々承届ケ可然候、且右願出十九日ニ名主中手前江寄セ相談之上、相認メ御評定所江持参相願申候得者、文言之内御さつとふ有之御返シ被遊候間、又々廿日ニ寄セ申候而書替当日御役所江差上候得者相納り申候

右願書相済不申帰り申候

二八

○^朱 一御合力粉御手形、十九日於御評定ニ御裏判相済、廿日ニ御役所を相渡り請取申候、五町めを馬場儀七殿江例之通頼遣申候、尤御裏判左ニ

野村 惣衛門様
大井六郎左衛門様印
谷 主鈴様印

右之通ニ御座候、一兩日之内御役所江計御礼ニ罷出候

二九

○^朱 一魚蠟燭 式拾挺 但シ式拾目掛ケ
此代鑑四百文

右之通、売上代鑑此度請取申候、以上

駿河屋仁衛門

右者、去ル四月廿六日相馬讚岐守様御通ニ付、問屋前江寄セ馬参候ニ付、ばんぼり燈申候、蠟燭代鑑此度請取相払申候、以上

明和五年子七月
加藤彦市殿
江幡治郎衛門

三〇
○(朱) 一去亥暮馬金上納、左之通上納いたし候

覚

一金四拾兩也 拾兩馬金分

無遲滯金四兩壹分三百八拾三文

一金三拾貳兩也 八兩馬金分

無遲滯利金三兩壹分壹文

内金四拾兩 上納三月朔日

殘金三拾九兩貳分壹文三百八拾四文

右之通、上納不殘致候、以上

明和五年子ノ十一月朔日

三一
○(朱) 乍恐書附を以奉願上候事

一下御町往還馬數追年相減申候而、馬代御金拝借御願申上候度
毎ニ申上候通、當時馬數三拾疋御座候所、此内病馬四疋御座
候得者残り廿六疋ならてハ無御座候、又者当七年以前未年馬
金拝借被 仰付候、馬持共去子暮迄上納ニ御座候ニ付、当春
迄に上納仕候得者自分馬ニ罷成候ニ付、勝手ニ売払申候所存
之者も相見へ申候、左候得者段々馬數相減申候儀と奉存候得
者、往還御用之儀者初置 御上之御用御家中様方御用ニも手
支申候程之儀と奉存候

一御用之儀者、御城御評定御藏方・御買物方・御肴方并御家

中様方往還之儀者、御代官御領府中松川御陣屋・笠間・岩城・
相馬常輪之通、其外仙台・南部・秋田家中・津輕筋之通先年
者無御座候所、近キ頃者不時ニ通御座候故、馬數減少仕候而
者、別而難義仕候義度々御座候、御当地之様子御存知之方ハ
左様ニも無御座候得共、不勝手之衆中ハ被致立服候得共、御
城下之事故諸事差扣被申候義と奉存候、下々族者遠慮無之、
凶事も出来可申哉と安心不仕候、左様之節ハ鄉村ノ薪売等之
馬を雇、又者小鶴・長岡・枝川等ノ商人荷物附參候馬を相雇、
附送り間ニ合候義も度々御座候、夜ニ入左様之右馬も無御座
候節ハ、至極ニ迷惑仕候ニ付、御願申上候者馬壹疋ニ付御金
拾兩宛、四拾疋分前々之通、五ヶ年賦ニ拝借被為 仰付被下
置候様ニ奉願上候、右之通往還駅馬不足ニ付至極難義仕候間、
御仁恵之御了簡を以願之通被為 仰付被下置候ハ、難有仕
合ニ奉存候、已上

明和六年丑二月

加藤三郎兵衛

江幡治郎衛門

御町御奉行所様

三二
○(朱) 以書付奉願上候事

一私義、馬指先年願上被仰付、七ヶ年相勤罷在候所、旧冬ノ前々
与相勝レ不申候処、此間ニ罷成候而者、別而相勝レ不申候間
甚難義仕候、此上快氣仕候而も昼夜之勤ニ御座候得者、寒暑

共ニ相障リ可申と無心元奉存候間、此度御暇被下置候様ニ奉願上候、此段御相談之上被 仰上御暇被下置候ハ、偏ニ難有奉存候、以上

明和六年丑二月

馬指 武介印

江幡治郎衛門様

加藤三郎兵衛様

右之通、武介願出候間、前例之通御役所江願書持参仕入御聞申候所、願之通暇遣候様ニ取計、可然と御挨拶ニ付暇遣申候、跡役之儀三間町庄蔵召抱可申と訴申候処、其元方可然と存候ハ、召抱候様被仰付候間、則庄蔵召抱申候、依之右之次第御町年寄衆江申出候、尤加藤彦市殿江計申出候

一 武介支配・庄蔵支配名主中江も為知申候

明和六年丑二月廿七日

三三〇

一 御町奉行伊藤孫兵衛様御役替ニ付、跡御町奉行様於江

戸中山庄司左衛門様、当三日ニ被 仰出候、七日ニ御達有之、尤御下着八十一日ニ候間御着次第御祝義申上候様ニ被仰付候間、十一日昼時御祝義ニ罷出候

三四〇

一 先達而被願出候馬金拝借之義、金貳百兩貳拾疋分相済

候間、前例之通手形仕出シ可被有之候、已上

丑四月十四日

右之通、御達御座候間、十五日ニ御奉行様并御役所江御礼申上候、且又右手形も十五日ニ差出申候

拜借仕馬金之事

文金貳百兩小程 丑之暮夕巳之暮迄五ヶ年、亥ヶ年金四拾兩宛

右者、下御町往還荷物附申馬不足ニ付、為馬金無利ニ拝借仕候処、実正ニ御座候、但上納仕様者丑之暮夕巳之暮迄前書金割之通、五ヶ年ニ毎暮上納可仕候、尤面付手形私共方江取置申候間、連判之内死失絶前御座候ハ、相残り之者共為相弁、屹ト上納可仕候、依如件

問屋 加藤三郎兵衛印

同 江幡治郎衛門印

御町年寄 上田作十郎印

明和六年丑四月

同 岩田太郎衛門印

同 加藤彦市印

右之通、為致拝借候致遅々候ハ、我々共今申付上納可為致候已上

中山庄司左衛門

佐野四郎衛門

長谷川軍之衛門殿

西 郷半左衛門殿

右之通、相認差出シ申候、以上

此先江御用人様御三人御加判有之候間、半数計もらい紙取可申候、并御裏判も有之候間、森久保紙へ書可申候事

一右拝借手形御加判・御裏判等相濟、廿四日ニ渡り申候、仍而御役金方江廿五日ニ参候処、未御若老様御改廻り不申候由金子渡り不申候間、直ニ鼠町江参候而御改廻候様ニ願申候得者、直ニ御奉行様江御若老様江御仕出書御遣被遊候、仍而廿六日ニ御役金方江罷出候所、成程御改書付廻り候渡可申候ト御座候所、夫々歸り支度仕候得者御役所引申候故、廿七日ニ罷越金式百兩請取申候、且申ノ年金式百兩拝借之手形之儀小手形五数持参引替申候、鼠町江右御金請取候段并右手形御印形御けし被下候様ニ上申候、右金加藤氏江渡置申候而、廿八日ニ渡シ申候

指上申一札之事

文金式百兩小粒 壹人ニ付金拾兩宛、当暮今巳暮迄、金四拾兩ツ、

五ヶ年賦上納

右者、下御町馬不足ニ付、馬金無利足拜借被 仰付候ニ付、私共請合別紙面附之通拝借為仕申候、拜借人上納相滞申候ハ、私共弁、前書之通五ヶ年中暮々屹ト上納可仕候、万一請人之内死失絶前、或者困窮ニ而弁等不罷成候ハ、惣請人割を以相弁上納可仕候、依如件

台町名主
吉郎衛門

七軒町名主
与左衛門

本式町名主
四郎兵衛

肴町名主
五左衛門

本六町名主
伝五衛門

八町名主
武兵衛

本壹町目
藤兵衛

本二町目
茂兵衛

本三町目請人
仁右衛門

肴物町請人
九藏

八町目
又兵衛

本四町名主
五郎衛門

本七町名主
武左衛門

下新町名主
伊左衛門

裏壹町目
藤五郎

同町請人
甚左衛門

七軒町同
吉兵衛

本四町目
半三郎

九町目請人
兵藏

志保町名主
吉左衛門

曲尺手町名主
吉郎左衛門

七軒町
千松

同町請人
豊後

本三町目
式定持
三郎衛門

肴町
利兵衛

江戸町請人
半右衛門

右之通、馬金拜借人相撰拜借仕候ニ付、面附之通請人相立御金為請取申候、万一上納相滞申候ハ、前書文言之通取計可申候、依之加判仕手形為指上申候、以上

台町名主
吉郎衛門

肴町名主
五左衛門

本六町名主
伝五衛門

八町名主
武兵衛

七軒町名主
与左衛門

本四町名主
五郎衛門

本七町名主
武左衛門

下新町名主
伊左衛門

本式町名主
四郎兵衛

肴町名主
吉左衛門

曲尺手町名主
吉郎衛門

明和六年丑四月

加藤 彦市殿

岩田太郎衛門殿

上田 作十郎殿

江幡次郎衛門殿

加藤三郎兵衛殿

右之通立紙ニ相認メ候、是八年寄衆江請取置候、已上

覚

一金拾兩也

台町名主 吉郎衛門

一金拾兩也

七軒町名主 与左衛門

一金拾兩也

本二町め名主 四郎兵衛

一金拾兩也

肴町名主 五左衛門

一金拾兩也

本四町め名主 五郎衛門

一金拾兩也

塩町名主 吉左衛門

一金拾兩也

本六町め名主 伝五衛門

一金拾兩也

本七町め名主 武左衛門

一金拾兩也

曲尺手町名主 吉郎左衛門

一金拾兩也

八町目名主 武兵衛

一金拾兩也

下新町名主 伊左衛門

一金拾兩也

七軒町 千松

一金拾兩也

本三町目 藤兵衛

一金拾兩也

本式町目 茂兵衛

一金拾兩也

裏老町目 藤五郎

一金貳拾兩也

本三町目 三郎右兵衛

一金拾兩也

肴町 利兵衛

一金拾兩也

本四町目 半三郎

一金拾兩也

八町目 又兵衛

但 当丑暮今巳ノ暮迄五ヶ年賦、老疋ニ付金貳兩ツ、

惣ノ金貳百兩

此馬貳拾疋

右者、下御町往還馬不足ニ付我々拜借仕候所、実正ニ御座候、

上納致様ハ当丑暮今巳暮迄五ヶ年賦無利疋、但金四拾兩宛每暮

屹卜上納可仕候、若拜借人之内死失絶前御座候ハ、相殘連判

之者共相弁上納可仕候、仍如件

明和六年丑四月

前書之通、御金御定之通每暮無遅々上納可為仕候、以上

問屋 加藤三郎兵衛

同 江幡次郎衛門

御町年寄 上田作十郎

同 岩田太郎衛門

同 加藤彦市

御町御役所様

右之通、横帳ニ認メ御役所江指出シ申候

相渡申一札之事

馬金拜借人本三町目 三郎衛門

一

右者、当丑之四月今巳暮中迄拜借為仕候ニ付、馬役無滯為相勤

可申候、尤暮々上納金貳疋ニ而金四兩宛、是又屹卜為相納可申

候、此上当人如何様之義御座候共、私共請合少シ茂無滯上納為

仕可申候、為其加判一札仍如件

本三町目 孫衛門印

明和六年丑四月

江幡治郎衛門殿

加藤三郎兵衛殿

右之通之一札、我々方江請取置申候、以上

一同馬金拝借人肴町利兵衛、同町組頭平治衛門、同町名主五左衛門、前書之通文言何れも同断ニ御座候事

本四町め名主
五郎衛門印

心得者也

三月十八日彈正筑後

日光道中

千住今鉢石迄

并壬生通

岩附通

例幣使道共ニ

水戸道中

佐倉道

松戸八幡迄

右宿々 問屋

年寄

三五

○朱 一台町三・四町目明和七寅三月七日夕九ツ時今出火家数

三拾軒余類焼ニ付、持出シ人足四月廿日迄御免被下候様ニ台町組頭願出候ニ付、御役所江申上候、以上

三六

○朱 宿繼御証文ニ而国々江被指遣候、御用物之儀御状箱ト御

荷物幾口茂同時ニ至来之節ハ、混雜無之様ニ取計可継送之義之處、等閑之宿々茂在之趣相聞不埒之至ニ候、以後御用物幾口茂同時ニ至来致候節ハ、御状箱と御荷物不相放様ニ口々相分ケ、混雜不致様ニ急度念入可継送ル候、若不埒之取計於有之ハ可為曲事条其旨可相心得もの也

前書之通、東海道江此度相触候間、其宿々之義も右同様ニ可相

右御触御書之趣、逸々謹而拜見承知奉畏候、依之御請印形差上申候、以上
右御触書、本書者千住ニ而封シ写、件之通千住ニ而認メ、日光道中・例幣使道夫今入、御国塩子通ニ而飯富今継參候間長岡江相送り申候、尤他所者問屋・年寄印形ニ而送り申候、此方左之通相記送り申候

水戸城下

問屋 江幡治郎衛門

同 加藤三郎兵衛

右者、五町目月番ニ継參候、重而見合之ため扣置申候

明和七年寅三月晦日

三七

○^(米)一 台町類焼之場所持出シ人足、四月廿日迄願之儀三月廿

日迄御沙汰無御座候ニ付窺出候所、台町々茂願出候様ニ指図可致御達シ、仍而相達候得者是迄御内々御指引被下候間相願不申、是より持出シ人足役相勤可申候由申出候間、右之次第御訴申候

同寅三月廿一日

三八

○^(米)一 松平右近將監殿々順阿弥を以御城附共江一紙ニ而御渡

候御書附之写シ

東海道中・中山道中・甲州道中、右宿々旅籠屋ハ勿論、脇往還其外之村々ニ而宿ヲ取候、旅人炊候ハ、其所之役人立合医師を掛ケ療養ヲ加江置、其旨御領者御代官・領主・地頭江相届ケ、五海道者道中奉行江茂宿送りを以致注進、右旅人早速快無之趣ニ候ハ、其在在所之村役人等江申遣、親類呼寄対談之上可任存寄、若療養も不加ヘ宿繼・村繼杯ニ而送り出シ候義於頭者、五海道者旅籠屋・問屋・年寄其領之村々ハ宿致候者、役人とも江急度御仕置可申付候

一 右之外通掛相煩之旅人茂其外之役人立合、医師を掛療養ヲ加江勿論懐中ニ往来手形有之候哉相糺、御領者御代官、私領者領主・地頭江致注進、右病人早速快無之趣ニ而在所江帰度候得共、路用貯無之間御送り届ケ御呉候様ニ申候ハ、書附取

之其最寄ニ支配之役所江、其旨致注進置所役人共得ト遂相談、

右病人頼之趣ヲ認相添江次村江駕籠ニ而送り、夫々次々村々ニ而茂、病人之様子次第服薬為致同様ニ取計、在所江可返遣但シ旅人申立候在所江送り届、万一其在在所之者ニ無之候ハ、不取逃様其所江留置其筋江可訴

一 途中ニ而相果候ハ、次村江不継送、支配之役所江致注進、其所ニ而仮埋ニ致置、其者之在所・親類・村役人江掛合之上、其所ニ葬候共望ニ可任、若道心者廻国之類杯懐中ニ他国ニ而相果候共、其所江葬候様ニ本寺触頭其在在所之寺院、或者親類等慥成書付在之候ハ、支配之役所江相届ニ不及其所江可取置、勿論最初行倒相果罷在候節之取計も同様之事

右之通可相心得万一療養茂不加江或者内々ニ而於継送ルニ、是又急度御仕置可申候

一 都而右之類之諸人用

享保二十年卯年五海道相触之通、病人又者在所々指出候ハ、格別無之候ハ、宿割・村割ニ可致

右之趣、可相守者也

亥十二月

右之通相触候間、可存其意候

右之通、今日御若老衆々御達在之候間、問屋ハ猶更宿屋共江得ト相達、支配下銘々可申附候、以上

明和七年寅八月

○(朱)

一上田作十郎殿内々ニ而、得御意度候間御出可被成と
手紙參候間罷越候処、問屋役ニ被仰付後町内名主方江寄合屋等
又者廻状杯之取扱如何候哉と尋御座候、相答候ハ寅ノ年別段
格式御直シ被下候後、名主・組頭等江寄合江者居之者名代ニ
差出シ申候、廻状之義者町内一同相廻り申候、問屋役被 仰
付後只今ニ同様之取計ニ御座候由相答申候、左候得者右之次
第、内々承候義ニ有之候由答ニ御座候、尤同役二郎兵衛方江
も尋有之候

一左之通之一紙、内々被為見候間写シ參り候、心得に扣置候

本三町目名主

伝左衛門

本四町目組頭

太郎衛門

其方共、支配地内ニ致住居候而問屋之儀者、先規方御町年寄ニ
指統拾役所ニ者万端取計候処、近年いつとなく平町人並之様ニ
取計、役所方申渡候儀在之節ハ、組頭宅江問屋共をも呼寄申渡
候由相聞へ候、右之通役所ニ而者取計候処、不都合成取計と向
後而問屋之儀者、御町年寄ニ准取計可申者也

享保拾貳年未七月廿日

右之通写シ參候、明和七年寅九月十日

○(朱) 四〇

一向御山常福寺様

大公儀御召意御用ニ而御発駕、明和七年寅十一月廿六日曉八ッ
時向御山御発駕被遊候由、人馬先触廿四日夜通り申候、前々方
御役所江者訴不申候間、此度も訴指扣申候、此方廿六日曉七ッ
半時御着拙宅江御立寄、御酒あんどん差上六ッ過ニ御立被遊候、
此度之御登りハ伝通院江御移転之 御用之由御登り被遊候、拙
者御出入故御立寄り御座候

以書付致啓上候、寒中別而甚寒ニ候得共、弥御堅勝可被成御座
奉珍重候、然者今曉ハ向御山様御通御刻限、早ク別而御取込被
成候半奉祭候、於此方ニ茂刻限早ク手支申候事共御座候、就夫
繼所之儀三町目月番ニ御座候間、右之場所迄被遊御出候処、治
郎衛門義前々方御出入之儀故御立歸り被遊、治郎衛門宅江被遊
御立寄り候ニ付、高ぼんぼり持等四町目迄、御供致申候様ニ繼
所江詰申候者共申付候処、不相用不礼雑言等申不致持參候、繼
所御法之義ハ御存之通御休・御泊り之場所迄持込持出シ同様之
事ニ御座候得者、御村人足可致持參候所、右等之儀別而不届之
致方ニ奉存候、第一对方両様江不輕至極之儀奉存候、依之此方
之者共江為持遣申候、尤問屋場前ニ而申付候次第不相用、却而
雑言等申候者共之儀ニ候得者、留置其筋江可申上候所、御村人
足ニ違も無之、追而相知候儀故相帰シ申候得共、其分ニ而ハ難
差置奉存候間、右之次第今日其筋江申上候ニ付得貴意申候、雜
言申候者共五人程ニ御座候、右之内裡なし羽織着致候惣助ト申
者、別而雑言申候次第ニ御座候間、右雑言申候者共名前御申越
被下候様仕度奉存候、右之段得貴意度如斯ニ御座候、以上

十一月廿六日

江幡治郎衛門

小沢伊助様

加藤三郎兵衛

右之通相認、歩行夫ニ而枝川江遣申候、御役所江も届ニ御内意
申上候処、懸り合六ツケ敷候間、若枝川手入有之候ハ、内々
濟シ遣候様ニと御(後欠)

〔裏表紙〕

佐藤五右衛門